

—研究・実践のまとめ—

いばらき

令和7（2025）年度



大阪府立茨木支援学校

はじめに

この度は、茨木支援学校研究紀要をご覧いただき、誠にありがとうございます。本校の学校経営計画においては、「すべての人が将来に希望を持ち、それぞれの自立と社会参加をめざす学校」という大きな目標を掲げております。この目標を実現するため、私たちは日々、児童生徒一人ひとりに寄り添った教育活動の充実に努めています。本紀要では、そうした教職員と子どもたちの日常に光を当て、等身大の知見を紹介します。

I. 全校研究：発達の段階×生活年齢～その授業、どちらにあわせていますか？～

昨年度は「指導と評価の一本化＋キャリアの第一歩」と題し、授業の中で育まれるキャリア発達の観点に着目しました。今年度はその歩みをさらに進め、「発達段階」と「生活年齢」の両面から授業づくりを再考することをテーマに掲げました。授業づくり研修では、全校研究テーマを軸に研究授業を行うと共に、桐が丘特別支援学校の先生方の専門的な研修や実践を通じた学びに加え、職員会議の時間にオリジナルのスライド動画を活用した「3分間ミニ研修」を行いました。多忙な業務の中でも研鑽を怠らず、効率的に知見を共有するこのスタイルは、現在の働き方改革の時流に即した、持続可能な研究活動のあり方であると思います。

II. 自立活動：日々の実践事例を通しての知見

自立活動の報告においては、特に重症心身障がい児にとって非常に大切な「姿勢」と「移動」もう一つは全ての教育実践の基礎となる実態把握ツールを活用した内容について報告しています。いずれも、日々の実践事例を通しての学びを丁寧に掘り起こしています。教育の本質や素晴らしい実践は、決して特別な研究用の授業だけに存在するものではありません。児童生徒との日々の何気ないやり取りや、一瞬の表情の変化に応じる微細な関わりの中にもこそ、真の学びが宿っていると考えます。

III. 授業実践の新たな試み「さかのぼり日本史」

高等部での「さかのぼり日本史（通史）学習」というユニークな取り組みを紹介しています。現代から過去へと時間を遡りながら歴史を紐解くこの新しい試みは、子どもたちの興味・関心を惹きつけ、歴史のつながりを実感させるものです。

おわりに

本校の全教職員は、児童生徒一人ひとりの異なるニーズを把握し、それぞれに合わせ

た丁寧な関わりを行うことを常に心がけております。日々の授業や生活の積み重ねが、子どもたちの将来の笑顔に繋がると信じ、教育活動に取り組んでいます。本紀要に掲載した内容は本校の研究の一部ではございますが、ご一読いただき、ご高評賜れば幸いです。今後も茨木支援学校は、児童生徒の学びと成長を何よりも大切にし、一人ひとりの可能性を最大限に輝かせていくために歩み続けてまいります。

令和8年3月

茨木支援学校 校長 大峠 貴弘・ 准校長 紙野 泰彦

目 次

○ はじめに

学校長・准校長

I. 研究部 令和7年度の全校研究について 5

1. 令和7年度 授業づくり研修の概要

『発達の段階×生活年齢～その授業、どちらに合わせていますか?』

2. 全体研修資料

今年度の全校研究について

(1) 全校研究①

(2) 全校研究②

(3) 実践事例指導案・シラバス

(4) 全校研究③

(5) 全校研究④

3. 3分間動画資料

4. まとめ

II. 自立活動支援部 43

自立活動の実践事例研究

III. 実践報告 49

高等部設定科目： 理科社会

政治的教養を育む教育「模擬選挙を通じた選挙理解」

I . 研究部

令和7年度の全校研究について

令和7年度の全校研究について

研究部

本校研究部では、教科の視点での授業づくりをテーマにした研修を、令和2年度から実施してきた。今年度は『発達の段階×生活年齢～その授業、どちらに合わせていますか？～』を主題に、全体研修、授業づくり研修で構成した全校研究を実施した。筑波大学附属桐が丘特別支援学校の成田美恵子教諭と石田周子教諭より、各教科の単元づくりのプロセスや国語科の授業づくりなどについてご講義いただいた。そして昨年度までの研究内容の振り返りや、年次研究授業の報告として授業紹介動画も昨年度に引き続き実施した。

R7 授業づくり研修

6月 全校研究①

今年度のテーマ紹介（発達の段階×生活年齢）
今年度の授業者とグループ紹介 / 中学部 Bコース「ことば・かず」：酒井先生
普段の授業の様子の動画視聴

7月 全校研究②

筑波大学附属桐が丘特別支援学校の先生方の講義
「教科の授業づくり」「国語科の特徴と生活年齢を考慮した題材選定」

12月 全校研究③

授業づくり研修について ～一つの授業ができるまで～
研究授業動画の視聴

1月 全校研究④

筑波大学附属桐が丘特別支援学校の先生方の講義
「本校の授業づくり研修について」「今年度のテーマ（発達の段階×生活年齢）について」



・全体研修

- 全校研究1「昨年の授業の振り返り・発達の段階×生活年齢のテーマについて」
- 全校研究2「各教科の単元づくりのプロセス・国語科の授業づくり」
- 全校研究3「授業づくり研修について ～一つの授業ができるまで～」
- 全校研究4「本校の授業づくり研修について・授業づくりのプロセスについて」

・授業づくり研修（実践報告）

テーマを「発達の段階×生活年齢～その授業、どちらに合わせていますか？～」と設定し、全校研究3にて実践報告を実施した。小学部1段階の国語科・算数科・外国語科の合わせた指導を行う「ことば・かず」という授業に焦点を当て、単元設定や合わせた教科の指導、評価規準の設定や学習指導要領やシラバスとの繋がりについて、筑波大学附属桐が丘特別支援学校の先生方にもご助言をいただき、一つの授業を作り上げる過程を報告した。

まとめでは筑波大学附属桐が丘特別支援学校の先生方より、評価と指導助言をいただき講評をしていただいた。

令和7年度 全校研究

全校研究①

昨年度の振り返りと
今年度のテーマ・授業紹介



1

本日の全校研究①の流れ

- (1) 前年度の全校研究の振り返り
- (2) 今年度のテーマ紹介
- (3) 授業実践について
- (4) 諸連絡



2

全校研究①

- (1) 前年度の全校研究の振り返り



3

R6年度の全校研究のテーマは…

指導と評価の一体化+！
～キャリアの第一歩～



4

R6年度の全校研究のテーマは…

指導と評価の一体化+！
～キャリアの第一歩～



授業者・キャリア教育の説明：坂東先生

5

キャリア教育について

無関係ではないです！

キャリア教育 ≠ 進路指導・職業教育



6

キャリア教育（発達）とは

社会の中で役割を果たしながら、
自分らしい生き方を実現するための教育

＝生活をより豊かにするためのもの

自己の確立

コミュニケーション

自己選択
意志決定

7

キャリア教育の対象

- ・全ての教育活動で行える(授業、生活場面、行事、休憩時間)
- ・全てのステージ（年齢）の子どもに行える
- ・全ての発達段階の子どもに有効

※実際の子どもへの落とし込みが必要



ヒントになるのが
「キャリアプランニング・マトリックス」

本校のキャリアプランマトリックス

	小学校（低学年）	小学校（高学年）	中学校	高等学校
人間関係形成・社会形成能力	集団の中で 自分の考えや立場を理解して、 相手の考えを理解し、 共通の考えや価値観を築く。	集団での生活に慣れる	様々な集団で活動する	自信と能力でできる
	身近な人に伝える	身近な人に伝える	自分らしく表現する	誰にでもわかりやすく伝える
	自分の考えや立場を伝える	自分の考えや立場を伝える	自分の好きなことや得意なことを知る	自分のことを紹介する
	自分の考えや立場を伝える	自分の考えや立場を伝える	自分の考えや立場を伝える	自分の考えや立場を伝える
	自分の考えや立場を伝える	自分の考えや立場を伝える	自分の考えや立場を伝える	自分の考えや立場を伝える

9

キャリア教育に関する基礎的・汎用的能力

- 人間関係形成・社会形成能力
コミュニケーション、ルール、他者理解
- 自己理解・自己管理能力
自己理解、動機付け(主体性)、心身の安定
- 課題対応能力
情報活用、意思決定、実行力
- キャリアプランニング能力
見通し、選択、

10

おむつ替えとキャリア教育



- 自己理解・自己管理能力
⇒不快さに気付く
- 人間関係形成・社会形成能力
⇒大人に不快を訴える
- キャリアプランニング能力
⇒おむつ替えに見通しを持つ
- 課題対応能力
⇒おむつを脱ぐとき少し腰を浮かせる

11

【授業づくり研修実践報告】

小学部2、3年生「ことばかず」
授業者：坂東先生
単元：「ぞうくんのさんぽ」

学習グループ
2、3年
(児童3名)

12

キャリア教育の視点から捉える授業の場面 ～読み聞かせ～



つぎは ほんをよむね

教師の指示を聞いて、絵本への興味を示した。顔があがり、教師と目があうようになった。



キャリアプランニング能力
・見通し等

13

キャリア教育の視点から捉える授業の場面 ～読み聞かせ・他の児童の発表～



絵本の読み聞かせ中、静かにTV画面を見て集中している。
友だちの発表場面では、友だちの方を向いて発表を聞こうとする姿がみられた。

人間関係形成・社会形成能力
・ルール、他者理解等

14

キャリア教育の視点から捉える授業の場面 ～手遊び～



手を口にあてたり、手のかさぶたをさわるがあったが、活動が始まると、教師を見て集中して活動に参加した。

自己理解・自己管理能力
・自己理解・心身の安定など

15

キャリア教育の視点から捉える授業の場面 ～再現遊び～



今までつかむ、つまむ時は親指と人差し指を使い、他の指を使おうとしなかった。
授業で手のひら程度のブロックを乗せていく学習を繰り返し取り組む中で、手全体を使い握もうとする姿が見られた。

問題解決能力

16

授業中の課題を"キャリア教育"の視点から考えることもできる。

例：授業に集中しきれない！

自己理解・自己管理
(気持ちの整理)

人間関係形成・
社会形成
(ルール、信頼関係)

キャリアプラン
ニング能力
(見通し)

→他のことが気になる、苦手、見通しが持てない

17

全校研究①

(2) 今年度のテーマ紹介



18

今年度の全校研究のテーマは...

発達段階 × 生活年齢

～その授業、どちらに合わせていますか？～



19

授業参観に来ていた保護者から、こんな質問が...

あなたならどうお答えしますか？



うちの子、去年もこの教材を使っていたんですけど、こういうのってずっと一緒なんですか？

20

この質問は、実際に本校で保護者から授業者に尋ねられた質問です。

もう高学年なのに...
もう中学生なのに...
もう高校生なのに...

毎年同じ教材だけど、
本当にうちの子どもに
合ってるの？

そういった保護者のさまざまな思いからの質問だと考えられます。

21

私たちも、教材や授業内容について、
日々頭を悩ませていますよね。

「幼児向け」って書いてあるけど、生徒に合うのはこの教材なんだよなあ...

去年と同じ教材になるけど、生徒に合うのが他にない...

今回の全校研究では、この問題を「発達段階」と「生活年齢」という2つのワードと一緒に、考えていきたいと思います。

22

「発達段階」とは...

児童生徒個人それぞれの発達の度合い



※この研修での定義です。発達段階理論とは別で、個々人の発達の度合いのことを指します※

23

「生活年齢」とは...

児童生徒の実年齢



24

発達段階と生活年齢

特別支援学校には、この2つにギャップがある児童生徒が多く通っています。

25

多くの先生は児童生徒の「発達段階」に応じて教材を作っていると思います。

では「生活年齢」は意識しなくてもよいのでしょうか？



26

今年度の全校研究では

「発達段階」と「生活年齢」という2つのワードをもとに、授業づくりを考えてみます！



27

全校研究①

(3) 授業づくり研修について



28

授業づくり研修

授業名：中学部 Bコース「ことば・かず」
 授業者：酒井先生

授業づくり研修に多数の応募をいただき、
 本当にありがとうございました！



29

「ことば・かず（国語・数学・外国語）」

授業実践者
 中学部
 酒井先生



学習グループ
 中学部Bコース
 中1～中3
 5名

30

グループの実態

基本的な生活習慣を確立するとともに、身辺自立をめざしたり、コミュニケーション手段を増やし、自分の気持ちや要求を他者に伝えることを、目標にしている生徒が在籍しています。



31

グループの実態

身振り手振りで自分の気持ちを伝えられる。
 こちらからの簡単な呼びかけを理解することはできる生徒が多い。



32

今回はAさんとBさんの2名に注目します



33

生徒Aの実態

- ・耳からの情報を受け取るのが得意。
- ・自分の好きな音の言葉を、繰り返すことができることもある。
- ・絵本が好き。
- ・好きなものに手を伸ばして、気持ちを伝える。



34

生徒Bの実態

- ・発声や、好きなものに手を伸ばすなどで、気持ちを伝える。
- ・音の鳴る絵本など、好きなことには集中して取り組むことができる。
- ・絵や写真等を用いることで見通しが持ちやすい。



35

「ことば・かず」での目標

【知】日常生活に身近な言葉や外国語に触れ、関心を持つことができる。
 【思】言葉をイメージしたり、色や図形、数量などに関心を持ったりして、人との関わりの中で伝え合う力をつける。
 【主】言葉の響きを感じるとともに、言葉を使おうとしたり体で表現したりする。

36

授業内容・教材例①

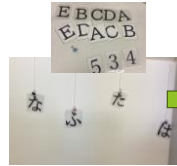
絵本



めくれるタイプが人気です

37

授業内容・教材②

文字や数字の
マッチングボードから一文字取って、
マッチングします

重ねて確認できます！

38

全校研究①

(4) 諸連絡



39

今後の予定

全校研究① (7月22日)
昨年度の振り返り、今年度のテーマについて

全校研究② (7月31日)
教科とテーマについて(桐が丘特別支援学校 講師より)

全校研究③ (12月)
授業報告、振り返り

全校研究④ (1月)
講評(桐が丘 特別支援学校 講師より)



40

令和7年度 全校研究

全校研究①

本日の感想・ご質問
さくら連絡 後にご確認ください。

おしまい



41

授業づくり研修

発達段階×生活年齢

～ その授業、どちらにあわせていますか？～

筑波大学附属桐が丘特別支援学校
主幹教諭 石田 周子

各教科の単元づくりのプロセス

-
- ```
graph TD; 1[① 各教科で育成を目指す資質・能力や各教科の見方・考え方をおさえる] --> 2[② 個々の児童生徒の学習状況を観点別に評価する]; 2 --> 3[③ 各教科で育成を目指す資質・能力の生活場面での具体的な姿を明確にする]; 3 --> 4[④ 単元の指導目標・評価規準を設定する]; 4 --> 5[⑤ 教材・指導の仕掛けを考える]; 5 --> 6[⑥ 単元における観点別学習状況の評価により個々の児童生徒の学習状況を捉える];
```
- ① 各教科で育成を目指す資質・能力や各教科の見方・考え方をおさえる
  - ② 個々の児童生徒の学習状況を観点別に評価する
  - ③ 各教科で育成を目指す資質・能力の生活場面での具体的な姿を明確にする
  - ④ 単元の指導目標・評価規準を設定する
  - ⑤ 教材・指導の仕掛けを考える
  - ⑥ 単元における観点別学習状況の評価により個々の児童生徒の学習状況を捉える

## 書籍を出版しました

単元開発

社会に参加する力を育む

障害の重い子供のための  
各教科の授業づくり



山下 直人  
(京大工学部附属・筑波大学筑波校特別定宿舎学校の校長)  
筑波大学附属駒が丘特別支援学校

学習指導要領の改訂に伴い、各教科等で目標とする「資力・能力の育成が強く求められてくる中、筑波大学附属駒が丘特別支援学校では「障害のある子どもの学びの機会づくり」をテーマとして研究が着目されている。本書は「障害のある児童科を一面にわたるためのものである。

まず、障害のある子どもの育ちの状況と課題を踏まえ、各教科の目標・内容や個別学習計画の立て付けの仕方などを把握する。その上で、各教科（国語・保健・数学・生活・社会・理科・体育・保健体育、図工工作・美術）の授業づくりの考え方、発達段階ごとの実践16例を紹介。

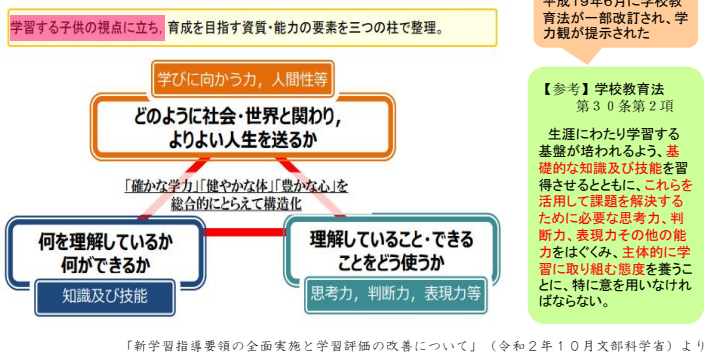
**悩み解消の手がかりに!**

悩み解消の手がかりに！

## 『障害の重い子供のための各教科の授業づくり』目次

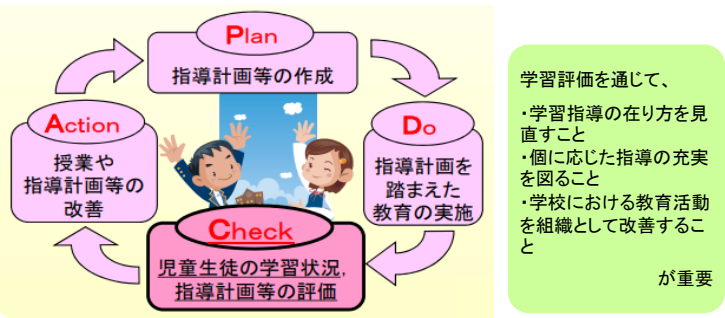
- [illegible]

今回の学習指導要領の改訂では



「新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について」（令和2年10月文部科学省）より

## 指導と評価の一体化



「学習評価に関する資料」(平成30年10月教育課程部会資料)より

## 書籍を出版しました

今年度は年間を見通して授業づくりに焦点を当て、改めてその考え方をポイントを整理。

生活（社会、理科を含む）、国語、算数・数学、体育・保健体育を段階ごとに取り上げ、児童生活から児童生活科、保健体育科の学習評価と指導評価への記入までをわかりやすくまとめた。

筑波大学附属高校が特別支援学校の紀要と実践を惜みなく提供した一冊。ぜひお手元に。

■ISBN978-4-86371-733-6  
■16開／208頁  
■定価2,640円  
（税別）2,463円

社会に参加する力を育む 年間指導計画・単元開発

# 障害の重い 子供のための 各教科の 授業づくり

著者 下山 人見（大阪大学経済学・国文学部教授）  
監修者 長谷川文子（国立特別支援学校校長）

読者のために贈る「障害の重い子供のための各教科の授業づくり」第2巻を発行！  
この2冊は、これまで「授業づくり」に焦点を当て、改めてその考え方をポイントで整理。  
生活（社会・理科と色とり）、道徳、算数・数学、言語・身体教育等幅広く取り上げ、発達障害の子供達から一年級生までの基礎的・学習指導要領への記入までわかる作りです。また、全巻、ぜひお読みください。

社会に参加する力を育む 年間指導計画・単元開発

障害の重い子供のための各教科の授業づくり 2

- [illegible]

## 観点別学習状況評価の各観点について

○「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価するものである。

○「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものである。

横積、知めたる行動なく、たらのす行なはしるる面を継続的に照らす側に行ふ旨付誤的単一の趣に身意は、主観を試うは、評保現にかうに評価力といふ際に向かひ、方ど傾度よくめかの評の態断進する動機、習うの態度や取り方と格に思し、と組性学習、握ばうに取にたしたる。學習に體得がある。學行「主學習要である」言の能の整重を按調が主教科自ら調を極教及、習こ

極教及、習こ

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（令和2年3月国立教育政策研究所）より

## “本物”の教材を用意する

- 『はらぺこあおむし』の奥深さ
    - 単語やフレーズを知る（食べ物の名前、数の数え方＝数唱、曜日や朝・夜など）
    - 物語の順序を予測する（繰り返しのパターン）
    - 時間の経過を感じる（1日、1週間、生物の成長や変化）
    - 感性が磨かれる（鮮やかな絵）
    - 心情を想像する（食べ過ぎてお腹が痛くなる場面）
  - ・朝顔を育てることの普遍性
    - 育てやすさ
    - 成長の観察のしやすさ
- 





## 国語科の授業づくりについて



筑波大学附属桐が丘特別支援学校  
教諭 成田 美恵子

学習対象が**言葉**そのもの



① 他者とコミュニケーションを図る



## ② 物事を考える

③ 行動をコントロールする

#### ④ 自我を育む



わたしは



ぼくは

参考：「言葉・非認知的な心・学ぶ力」  
赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育第3巻

学習指導要領では

学習指導要領では

## 言語能力を構成する資質・能力

### 【言葉による見方・考え方】

対象と言葉、言葉と言葉の関係を、  
言葉の意味、働き、使い方等に注目して  
捉えたり問い直したりして、  
言葉への自覚を高めること

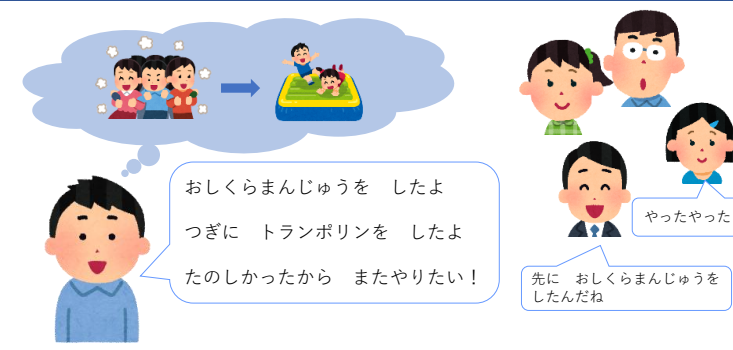
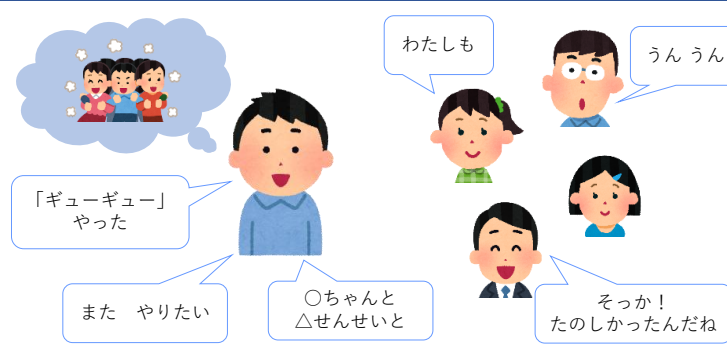
[illegible]

言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめ  
平成28年8月26日

### 各段階で目指す子供の具体的姿【小学部1段階】

### 各段階で目指す子供の具体的姿【小学部2段階】

### 各段階で目指す子供の具体的姿【小学部3段階】



「自分にとっての意味」のある言葉を育てる

一般的に言葉の意味とは

◇三人称的な側面

その言葉が指し示す内容，語義。辞書に書かれている内容。

◇一人称的側面

当人がその言葉が指す指示対象にどういふ思いを持つに至っているか，どういふ価値づけをするに至っているのかを示す。

正解はなく，その人らしさや個性がにじみ出る。

コミュニケーションで  
他者に伝わるのは意味に含まれる  
感情や価値判断

言葉が指し示す対象が当人にとってどれほどの意味合いをもつもの（こと）かを自分で模索していくことなしに，世界に対して価値を付与しながら関わることはできない。

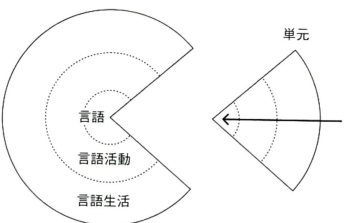
夕見鈴幸「言葉の一人称的な意味化の機会を可能な限り拡大することが，言葉の教育の最大課題に」  
藤森裕治編著「これからの国語科教育はどうあるべきか」東洋館出版社 2024年

「子供が言葉を学ぶ」を実現するために

個々が身に付ける  
具体的な言葉の力の設定

言葉の力を身に付けることのできる  
言語活動の設定

「子供が言葉を学ぶ」を実現するために



**言語**：各言語の体系で，音韻・文字・語彙・文法の体系。

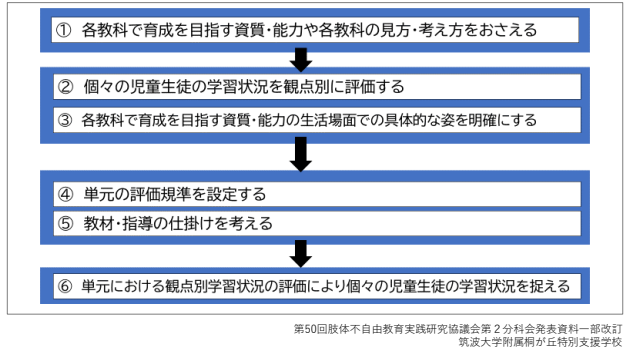
**言語活動**：主体的『意味』を創造していく，聞く・話す・読む・書くという活動の過程。

**言語生活**：固有の場や状況において展開される，個人的及び社会的言語活動の営み。

桑原隆「豊かな言語生活者を育てる－国語の単元開発と実践－」

指導の実際

各教科の単元づくりのプロセス



対象児童： 小学部第5学年3名 小学部2段階

- A児

低体重出生児  
水頭症  
てんかん
- B児

二分脊椎  
水頭症
- C児

染色体異常（10番）  
言語発達遅滞

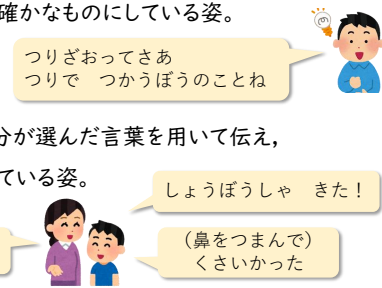
プロセス② 学習状況を観点別に捉える

| 知識・技能                                                                                                                                                                              | 思考・判断・表現                                                                                                                                                            | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・日常生活の会話はほぼ理解し，経験したことや必要な連絡を伝えることができる。<br>・カレンダー表記を見て特別な言い方（ついたち等）ができる。<br>・「グッドは英語」等と発言し，日本語以外の言語があることに気付いている。<br>・平仮名，片仮名を書くことはできるが，筆順や画の位置関係の捉えは自己流である。読む時は拾い読みの後，まともに気付く様子がある。 | ・授業で扱った「動ける言葉（動詞）」を日常生活でも見つけて積極的に教師に伝えており，言葉によって働きが異なることを捉えている。<br>・「鬼滅の刃」の主人公が鬼を倒すために戦っているという筋を理解している。<br>・一つの事物に一つの言葉を当てはめようとしている。<br>・思いを言葉で表現する以上に正解を気にする様子がある。 | ・状況を伝えるためにどの言葉を使えばよいかを教師に相談する一方で，分からない言葉に気付くことは少ない。<br>・積極的に友達のを代弁する様子があり，意思は言葉で伝えられることを実感している。<br>・書字の場面では，見本と書いた文字を見比べて修正する力がついてきた。<br>・物語の筋を部分的に説明するが，心に残った内容を話すことは少ない。 |
| より伝わる言葉の使い方を意識できるようになってほしい                                                                                                                                                         | もっと自分の思いを言葉で伝える力を高めてほしい                                                                                                                                             | もっと言葉に敏感になり，丁寧に言葉を扱ってほしい                                                                                                                                                   |

プロセス③ 国語科で育成を目指す資質・能力が生活場面で生かされている姿を具体的に

◇ 身の回りで扱われている言葉を自分の中にある言葉と照合したり，当てはめたりすることを通して確かなものになっている姿。

◇ 感じたことや考えたことを，自分が選んだ言葉を用いて伝え，身近な人とたくさんやり取りしている姿。



プロセス④ 指導目標・評価規準の設定

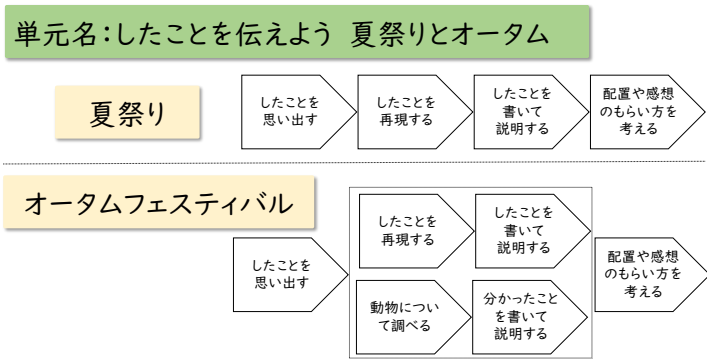
【指導目標】

- 経験したお祭りのことを表現する言葉を身に付ける。（知・技）
- 想起したことを音声言語や文字で伝える。（思・判・表）
- 言葉でやり取りすることのよさを感じる。（学）

【評価規準】

| 知識・技能                                                                                                                                                                                                                                                    | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                                                                                 | 主体的に学習に取り組む態度                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| ①行動と言葉の表す意味を結び付けている。ア(7)<br>②想起したことを音声言語で表現した語と平仮名のままとまりで表された語を結び付けている。ア(4)<br>③想起したことについての会話を通して，したこと，その様子について，名詞，動詞，副詞などを使って表現したり，友達や教師の表現を聞いたりしている。ア(7)<br>④表情豊かに音声や文字の言葉での表現に親しんでいる。イ(4)<br>⑤伝わる文字の形を意識している。イ(7)イ<br>⑥図鑑の絵や文字から情報を得られることに気付いている。イ(4) | ⑦聞くこと・話すことにおいて，友達や教師との会話を繰り返す中で，頭の中にイメージしたごとと知っている言葉とを照合したり，当てはめたりして事柄を伝えるための言葉を考えている。ア<br>⑧聞くこと・話すことにおいて，一つの出来事で（夏祭り・オタムフェスティバル），した事柄（輪投げ・動物とのふれあい等）をイメージし，音声言語で伝ええている。ウ<br>⑨書くことにおいて，物の名前やしたこと文字で伝えられることを知り，平仮名をままとまりで書いたり，なぞったりしている。イ | ⑩したことや気持ちを言葉で伝えられるよさを感じるとともに，思いや考えをもちながら言葉をよりよく使おうとしている。 |

題材と流れ

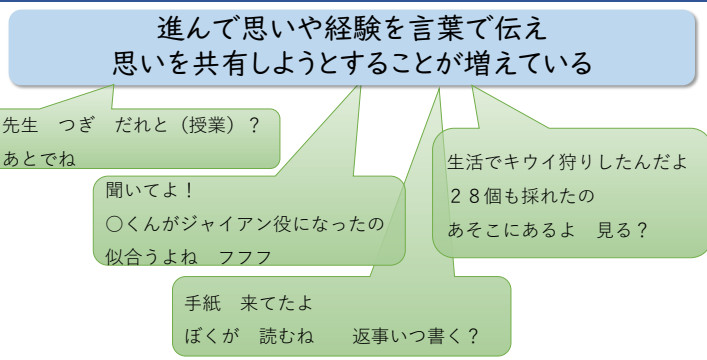


| 次 | 学習内容・学習活動                                                                                                                                  | 評価     |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 1 | ・学習のゴール（夏祭りでしたことを掲示板で皆に伝える）を知る。<br>・夏祭りで経験したことを思い出して話す。<br>・夏祭りで経験したことを分類する。（ゲーム、飲む、食べる）                                                   | ①③④⑦   |
| 2 | ・夏祭りで経験したことを、教室にあるものを使って再現し、詳しく言葉で説明する。説明に必要な写真を撮影する。<br>・撮影した写真を見ながら、経験したことを文字で表す。                                                        | ②③④⑤⑧⑨ |
| 3 | ・模造紙に写真や説明を記したカードを配置する。<br>・必要に応じて見出しを考える。<br>・感想のもらい方を考え、必要に応じてポストやメモ用紙を用意する。                                                             | ⑩      |
| 4 | ・学習のゴール（おタムフェスティバル（以下、おタム）でしたことを、掲示板で皆に伝える）を知る。<br>・おタムで経験したことを思い出して話す。<br>・おタムで経験したことを分類する。（ゲーム、移動動物園）                                    | ①③④⑦   |
| 5 | ・おタムで経験したことを、教室にあるものを使って再現し、詳しく言葉で説明する。説明に必要な写真を撮影する。<br>・おタムで見た、触った動物について図鑑で調べる。動物について知らせたいことを考えて文字や絵などを記す。<br>・撮影した写真を見ながら、経験したことを文字で表す。 | ②③④⑤⑧⑨ |
| 6 | ・模造紙に写真や説明を記したカードを配置する。<br>・必要に応じて見出しを考える。<br>・感想のもらい方を考え、必要に応じてポストやメモ用紙を用意する。                                                             | ⑩      |

プロセス⑤ 教材・指導の仕掛け

- ◇ **イメージを言葉で説明する機会を大切にする**  
言葉のイメージを豊かにし、**言葉の働き**を捉えられるように  
⇒見立て遊びの要素を取り入れる
- ◇ **言葉で伝えられるうれしさ・面白さを土台にする**  
**言葉感覚、思考力・判断力**の育成を意識して  
⇒掲示板やポストを活用してやり取りを目的にする
- ◇ **学習の流れを統一する**  
**主体的**に学ぶために  
⇒複数単元を見通して学習を組む

児童の日常生活の変容



## 「国語・数学・外国語」（ことばかず）学習指導案

府立茨木支援学校

|     |       |          |
|-----|-------|----------|
| T 1 | 酒井 未来 | (作成者)    |
| T 2 | 川口 大介 |          |
| T 3 | 吉見 太佑 |          |
| T 4 | 海住 大樹 | (5時間目のみ) |
| T 5 | 福元 宏和 | (6時間目のみ) |

1. 日時 令和7年10月28日(火) 第5・6時限(13:25～14:30)
2. 場所 展開B教室
3. 学部・学年・組 中学部 Bコース 5名
4. 単元(題材)名 「探してみよう」(数学)

### 5. 学習グループの実態・教材観、指導観

本授業は、国語的要素、数学的要素、英語的要素で構成されている。今回の単元は中でも数学的要素に注目をする。物の有無に気付いたり、目の前で隠された物を探したりすることを課題としている。

本学習グループの生徒は1年生、2年生、3年生の3学年で構成されており、シラバス小学部1段階を学習している。コミュニケーション方法は、発声や表情、指差しを主としている。明るく楽しい雰囲気を好む生徒が多いため、授業の進行はテンポ良く行い、生徒の集中が途切れないようにする。活動の切り替え時には、わかりやすい合図や言葉かけを行い、スムーズに次の活動へ移行できるようにする。

教材は、生徒たちが興味関心をもてるように、導入に生徒たちが好む仕掛け絵本を使用する。絵本は生徒一人ひとりの目の前に提示し、仕掛けを生徒たちが動かすことで物語への興味や達成感を得られるようにする。また、相手との簡単なやり取りができる生徒もいるため、絵本に出てくる「はいどうぞ」というフレーズに合わせて、生徒や教師が食べる真似を楽しく行うことで、生徒の興味関心を引き出し、本時の課題へのモチベーション向上につなげるようにする。

本時の「探す」という課題は、単に物を探すだけでは生徒の興味・関心を引きにくく、活動が単調になりがちである。そのため、物語性のある展開を取り入れ、生徒が主体的に関われるよう工夫する。物語の場面では、一人の教師が語るのではなく、複数の教師が語ることで、語り口調や表現の違いを生徒に体験させる。これにより、物語の臨場感が高まり、生徒の興味・関心を引き出すとともに、言葉への感受性や聞く力の育成にもつながる。多様な声や語り方を通して、生徒がより豊かに物語世界を感じ取れるようにすることで、主体的に課題へ取り組めるようにする。また、手指の使い方に課題のある生徒も在籍しているため、教材はなるべく掴みやすい物を用意する。

歌が好きな生徒も多く、課題に歌を取り入れることで生徒たちの集中を高めてから、課題を提示することで、生徒が主体的に課題へ取り組めるようにする。

## 6. 単元（題材）目標

- ・対象物の存在に気付く。（数・知識及び技能）
- ・対象物の存在に注意を向け、諸感覚を協応させながら捉える。（数・思考力・判断力・表現力等）
- ・数量や図形に気付く、数学の学習に関心をもって取り組もうとする。（数・学びに向かう力・人間性等）

## 7. 単元（題材）の評価規準

| A 知識・技能         | B 思考・判断・表現                      | C 主体的に学習に取り組む態度                    |
|-----------------|---------------------------------|------------------------------------|
| ・対象物の存在に気付いている。 | ・対象物の存在に注意を向け、諸感覚を協応させながら捉えている。 | ・数量や図形に気付く、数学の学習に関心をもって取り組もうとしている。 |

## 8. 単元の指導と評価の計画（全3時間、本時は第3時）

| 次  | 時        | 学習内容・学習活動                                                               | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                             | 評価規準<br>(評価方法) |
|----|----------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1次 | 1時       | ・くだものころりん<br>箱の中のくだものを探す                                                | ・生徒が自ら選択し、探索する意欲を高められるよう、物語のやり取りの中で自然に活動へ参加できるようにする。選択に迷う場合には、聴覚的・触覚的なヒントを用いる。                                                                                                                      | A              |
|    | 2時       | ・くだものころりん<br>箱の中のくだものを探す<br>目の前で隠されたくだものを探す                             | ・生徒が自ら選択し、探索する意欲を高められるよう、物語のやり取りの中で自然に活動へ参加できるようにする。選択に迷う場合には、聴覚的・触覚的なヒントを用いる。<br>・課題の難易度が高いと感じられる場合には、前段階の活動に戻るなど柔軟に対応し、成功体験を積み重ねられるようにする。                                                         | A B            |
|    | 3時<br>本時 | ・くだものころりん<br>箱の中のくだものを探す<br>目の前で隠されたくだものを探す<br><br>・お弁当バス<br>雲に隠れた具材を探す | ・生徒が自ら選択し、探索する意欲を高められるよう、物語のやり取りの中で自然に活動へ参加できるようにする。選択に迷う場合には、聴覚的・触覚的なヒントを用いる。<br>・課題の難易度が高いと感じられる場合には、前段階の活動に戻るなど柔軟に対応し、成功体験を積み重ねられるようにする。<br>・生徒の興味関心を促すため、歌を交えて活動を行い、親しみやすい雰囲気の中で主体的に参加できるようにする。 | A B C          |

## 9. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・空箱とくだものが入った箱を見比べ、くだものを探す。(知・技)
- ・目の前で隠されたものを探す。(思・判・表)
- ・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりする。(学)

### (2) 本時の評価規準

- ・空箱とくだものが入った箱を見比べ、くだものを探している。(A)
- ・目の前で隠されたものを探している。(B)
- ・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりしている。(C)

### (4) 本時の学習過程

| 時間                 | 学習内容・学習活動                                                                      | 指導上の留意点及び支援の手だて等                                                                                 | 評価規準<br>(評価方法)                      |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 20分<br>導<br>入      | あいさつ<br>出席確認<br>歌<br>絵本の読み聞かせ<br>(くだものどうぞ)                                     | あいさつを行い、気持ちを切り替えるようにする。<br>歌を流すときは、聴覚過敏の生徒に言葉かけを行い予告する。<br>・生徒の好きな仕掛け絵本で導入を行い、興味関心を促す。           |                                     |
| 30分<br>展<br>開      | ・くだものころりん<br>箱の中のくだものを探す<br>隠されたくだものを探す<br><br>・休憩<br><br>・お弁当バス<br>雲に隠れた具材を探す | ・複数の教師の声による演出で、物語の臨場感を高め、生徒の関心を促す。<br>・教材を目の前に提示し、注視するべきものがわかるようにする。<br><br>・生徒の好きな歌を使用し興味関心を促す。 | (A)<br>(B)<br>(C)<br><br>(B)<br>(C) |
| 10分<br>ま<br>と<br>め | 今日の感想<br>本時のふりかえり<br>あいさつ                                                      | ・絵カードを使用し、学習内容をわかりやすくする。                                                                         |                                     |

# (5) 児童生徒の実態と本時の目標

|   | 児童生徒の実態                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 本時の目標                                                                                                                                      | 支援の手だて                                                                                                                                                                                                          | 評価規準                                                                                                                                               |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物を掴むなどの動作は安定して行えるが、指先を使った細かい操作には時間を要することがある。</li> <li>・2つの選択肢から1つを選択する場面では、両方の選択肢を取ることが多い。</li> <li>・活動中に視線が手元から逸れることがあるが、環境や言葉かけによって集中が高まると、手元に注意を向けて取り組むことができる。</li> <li>・喜びなどの感情を笑い声で表現することが多く見られるが、要求や意思表示に関しては、発声による表現が少ないため、状況に応じた支援が必要である。</li> <li>・口に物を入れることがあるので注意が必要。</li> <li>・感情が高ぶった際に、友人との関わり方に課題が見られることがあるため、生徒間で距離をとる必要がある。</li> <li>・てんかん発作があるため、発作が起きた場合は、様子を注意深く観察し、体調に問題がなければ活動に復帰する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・空箱とくだものが入った箱を見比べ、くだものを探す。</li> <li>・雲に隠された具材を探す。</li> <li>・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を掴みやすいものにする。</li> <li>・2つの選択肢があることが一目でわかるように提示する。生徒が選択をするまで待つ。</li> <li>・教材を目の前に提示し、注視するべきものがわかるようにする。</li> <li>・生徒の好きな仕掛け絵本で導入を行ったり、歌を使用したりして、生徒の興味関心を促す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・空箱とくだものが入った箱を見比べ、くだものを探している。</li> <li>・雲に隠された具材を探している。</li> <li>・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりしている。</li> </ul> |
| B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人との関わりにおいて、初めは控えめな態度を示すが、慣れてくると安心感を持ち、笑顔で自分の気持ちを表現するようになる。</li> <li>・絵本に対して興味をもち、提示されると手を伸ばして関わろうとする。絵や動きに対して視線を向け、興味関心をもって注視や追視をしている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前の箱の中に隠されたくだものを音や触覚を頼りに探す。</li> <li>・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりする。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の好きな仕掛け絵本で導入を行ったり、歌を使用したりして、生徒の興味関心を促す。教材を目の前に提示し、注視するべきものがわかるように</li> </ul>                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前の箱の中に隠されたくだものを音や触覚を頼りに探している。</li> <li>・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりしている。</li> </ul>                        |



・印象的な言葉に触れると、その言葉を模倣しようと発声する姿が見られる。

する。  
・くり返し同じ言葉を聞く機会を作ったり、さまざまな教師の声で言葉を発声したりする。

C ・気持ちが授業に向かいづらい場面では、周囲との関わりを控え、静かに過ごす姿が見られることがある。

・教師の言葉や振る舞いを通して、学習のねらいや活動内容を自らの行動に反映させることができる。  
・感情が高ぶった際に、友人との関わり方に課題が見られることがあるため、生徒間での距離をとる必要がある。

D ・絵本に対して興味をもち、提示されると手を伸ばして関わろうとする。絵や動きに対して視線を向け、興味関心をもって注視や追視をしている。

・さまざまな回答をすることで、楽しみながら学習に関わろうとする姿が見られる。

・日常的な発声は少ないが、活動への関心が高まった場面では、教師の問いかけに応じて自ら発声し、参加の意思を示す姿が見られる。

・目の前で隠されたものを探す。

・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりする。

・目の前で隠されたものを探す。

・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりする。

・生徒の好きな仕掛け絵本で導入を行ったり、歌を使用したりして、生徒の興味関心を促す。

・複数の教師の声による演出で、物語の臨場感を高め、生徒の関心を促す。

・生徒の好きな仕掛け絵本で導入を行ったり、歌を使用したりして、生徒の興味関心を促す。

・不正解の選択があった場合には、生徒が本当に理解していないのか、あるいは楽しみの一環としてわざと間違えているのかを見極めるようにする。

・複数の教師の声による演出で、物語の臨場感を高め、生徒の関心を促す。

・目の前で隠された具材を探している。

・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりしている。

・目の前で隠された具材を探している。

・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりしている。

E

・掴む動作には不安定さがあるものの、関心のある物に対しては自ら手を伸ばし、積極的に関わろうとする姿勢が見られる。  
・自ら声を出して表現をすることができ、発声を通じて周囲との関わりを持つようとする姿が見られる。興味のあるものには、多くの発声をすることができる。

・目の前の箱の中に隠されたくだものを音や触覚を頼りに探す。  
・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりする。

・教材を目の前に提示し、注視すべきものがわかるようにする。教材を掴みやすいものにする。  
・複数の教師の声による演出で、物語の臨場感を高め、生徒の関心を促す。

・目の前の箱の中に隠されたくだものを音や触覚を頼りに探している。  
・具体物に興味関心をもち、積極的に見つけたり探したりしている。

## 全校研究③

R7.12.25 (木) 14:00～



1

## R7 授業づくり研修

- 6月 全校研修①  
今年度のテーマ紹介（発達段階×生活年齢）  
今年度の授業者とグループ紹介 / 中学部 Bコース「ことば・かず」：酒井先生  
普段の授業の様子動画視聴
- 7月 全校研究②  
筑波大学附属駒が丘特別支援学校の先生方の講義  
「教科の授業づくり」「国語科の特徴と生活年齢を考慮した題材選定」
- 8月 授業の相談・検討
- 10月 研究授業



2

## 本日の全校研究③の流れ

- (1) 前回の授業（全校研究①）を受けて、相談したこと
- (2) 相談を受けて意識した部分
- (3) 研究テーマについて
- (4) 授業者インタビュー
- (5) 授業動画視聴
- (6) 諸連絡



3

(1) 前回の授業を受けて相談したこと

- ◆ 各教科(国語・数学・外国語)を合わせた指導の難しさ
- ◆ 実態把握⇒目標設定



4

(1) 前回の授業を受けて相談したこと

- ◆ 各教科(国語・数学・外国語)を合わせた指導の難しさ
- ⇒ 国語・数学・外国語の3教科の内容を1時間の授業の中ですべて扱うと、育みたい力が曖昧になりがち・・・



5



各教科を合わせた指導であっても、一度に欲張らない。  
今月は「ことば」、来月は「かず」など、教科やねらいを分けることで時間をかけて本質を突き詰めていけるようにする。  
子どもの確かな力になっているか、という視点で考える。



6

(1) 前回の授業を受けて相談したこと

- ◆ 実態把握⇒目標設定へ

全校研究②では、まず実態把握をもとに目標を明確にしたうえで、活動内容を考えることの大切さを学びました。



7



目標を考えてから、目標を達成するための活動&教材を考える。その際、できるだけ興味関心に合わせるようにする。



8

(2) 相談を受けて意識したところ

- ◆ 教科やねらいを絞る
- ◆ ①実態把握②目標設定③活動、の順に考える
- ◆ 興味関心をひくためのしかけを散りばめる



9

(2) 相談を受けて意識したところ

◆ 教科やねらいを絞る

国語・数学・外国語の3教科のうち、今回は  
数学の小学部1段階 (2) A 数量の基礎 ア  
の内容に絞って行い、何時間が集中して取り組む  
ことにします。

10

算数科 小学部1段階 (2) 内容

A 数量の基礎

(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。

⑦ 具体物に気付いて指を差したり、つかもうと  
したり、目で追ったりすること。

(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

⑧ 対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、  
諸感覚を協応させながらとらえること。

【特別支援学校学習指導要領解説各教科等編 (小学部) 算数科P.111】

11

(2) 相談を受けて意識したところ

・ 興味関心をひくためのしかけを散りばめること

環境の工夫など  
(場所・人・物・音)

<例>

- ・ 子どもたちが好きで注目しやすい仕掛け絵本の物語や動きのあるもの、歌などの活動を取り入れました。
- ・ 絵本を用いたストーリー性をもたせた授業展開にしました。その場にいる複数の教師の声による演出により、臨場感が高まるようにしました。

12

(3) 研究テーマ

発達段階 × 生活年齢

～その授業、どちらに合わせていますか？～



13

「発達の段階」とは...

児童生徒個人それぞれの発達の度合い



14

「生活年齢」とは...

児童生徒の実年齢



15

発達の段階と生活年齢

特別支援学校には、この2つにギャップがある  
児童生徒が多く通っています。

16

多くの先生は児童生徒の「発達の段階」に応じて  
教材を作っています。

では「生活年齢」は意識しなくても  
よいのでしょうか？



17

今回は、目標を達成するために歌や物語  
を取り入れました。

歌や物語は生徒たちの生活年齢には合  
いませんが、歌や絵本が好きな生徒が多  
いため、使用することで興味関心を促し、目標  
を達成するために使うことにしました。

18

## (4) 授業者インタビュー

授業者：酒井先生

・絵本や歌は生活年齢には合いませんが、使用することで生徒たちの集中も続き、スムーズに課題に取り組むことができました。

・内容を変えて同じ目標を繰り返し行うことで、生徒の成長を感じることができました。

19

## (5) 授業動画視聴

授業名：中学部 Bコース「ことば・かず」  
(シラバス小学部1段階)



20

## (6) 諸連絡



21

## ○全校研究④

令和8年1月27日（火）16：15～17：00

- ・授業づくり研修のまとめ
- ・桐が丘特別支援学校 石田先生・成田先生より 講評



22

## ○アンケートについて

全校研究④終了後に、あわせて実施します。



〇〇の話が  
ためになった♡

みなさんのお声をお聞かせください。



23

おしまい

24

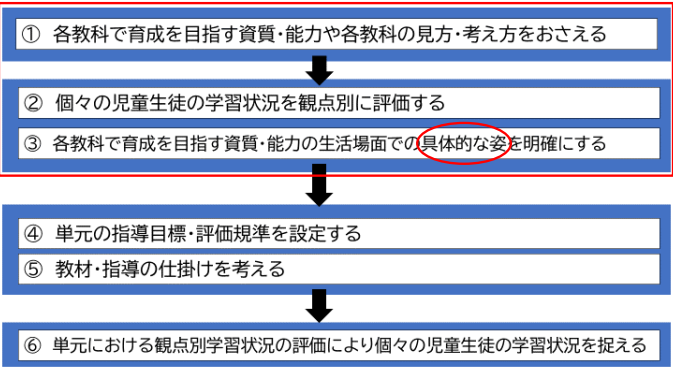
# 授業づくり研修

発達段階×生活年齢

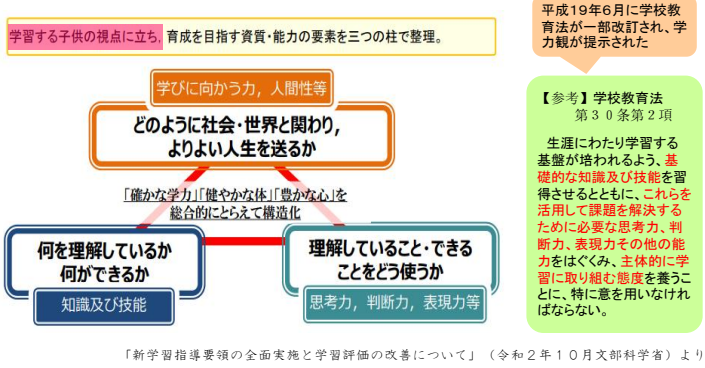
～ その授業、どちらにあわせていますか？～

筑波大学附属桐が丘特別支援学校  
主幹教諭 石田 周子

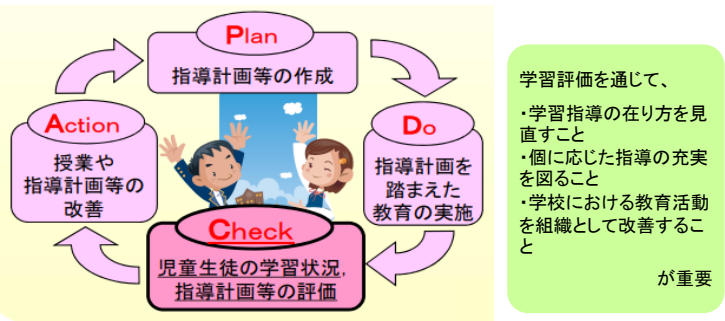
## 各教科の単元づくりのプロセス



## 今回の学習指導要領の改訂では



## 指導と評価の一体化



「学習評価に関する資料」（平成30年10月教育課程部会資料）より

## 何が身に付いたかー学習評価の充実ー

学習評価の意義等

○ 学習評価は、学校における教育活動に関し、子供たちの学習状況を評価するものである。「子供たちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、この学習評価の在り方が極めて重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性を持った形で改善を進めることが求められる。

○ 子供たちの学習状況を評価するために、教員は、個々の授業のねらいをどこまでどのように達成したかだけでなく、**子供たち一人一人が、前の学びからどのように成長しているか、より深い学びに向かっているかどうかを捉えていくことが必要**である。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月中央教育審議会）より

## 観点別学習状況評価の各観点について

○「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価するものである。

○「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものである。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」（令和2年3月国立教育政策研究所）より

## ある活動を、何に注目して/どのような視点で捉えるか

「かくれんぼ」をどのような目標で行うか？

「遊び」として行なうなら生活科かな。その場合、遊びのきまりが分かることや、友達と工夫して遊ぶことなどが目標になるね。

音楽でも、身体表現で「かくれんぼ」の歌を扱うことがあるよ。

やり取りの言葉に着目すると、国語としても扱えるのでは？

## これまでの授業を振り返ってみる

活動は楽しんだけど、どのような資質や能力が身に付いた？（楽しかったのは誰？）

目標を詰め込み過ぎていないか？（教師も子供も、何について学ぶかを意識できているか？）

イメージ写真

何を学ばせたいか、視点を明確にする

目標や評価の観点が明確になる

↓

学習評価を指導改善につなげられる

↓

子供の生活が広がり、より豊かになる

## 特別支援学校(知的障害)各教科の目標・内容では

例)算数科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

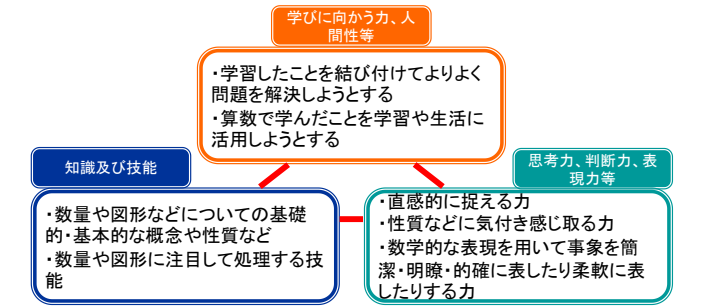
(1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。  
⇒【知識及び技能】

(2)日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。  
⇒【思考力、判断力、表現力等】

(3)数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。  
⇒【学びに向かう力、人間性等】



特別支援学校(知的障害)各教科の目標・内容では  
例)算数科の目標



特別支援学校(知的障害)各教科の目標・内容では  
例)算数科(数量の基礎)1段階の内容

- ア 具体物に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア)次のような**知識及び技能**を身に付けること。
- ⑦具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。
  - ①目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。
- (イ)次のような**思考力、判断力、表現力等**を身に付けること。
- ⑦対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。

書籍を出版しました

社会に参加する力を育む **単元開発**

**障害の重い子供のための各教科の授業づくり**

●監修 下山 進人 (筑波大学大学院特別支援教育研究科)

●編集 筑波大学附属特別支援学校

学習指導要領の趣旨に即し、各教科等で指導する授業・活動の作成に努められている。また、筑波大学附属特別支援学校では「障害の重い子供の各教科の授業づくり」をテーマとして研究を進めている。本書は、その知見と実践例を一堂にまとめたものである。

障害の重い子供の教育の現状と課題を踏まえ、各教科の目標・内容や学習指導要領の趣旨を踏まえ、その上で、各教科(国語・算数・科学・社会・理科・音楽・体育・保健・生活・総合)の授業づくりの考え方を、実践例とともに紹介する。

**悩みの解消の手がかりに!**

■B5判 148頁  
■定価 2,400円(税別 2,600円+税 10%)  
■ISBN 978-4-00717933-6

特別支援学校(知的障害)各教科の目標・内容では  
例)算数科(数量の基礎)1段階の目標

- ア **身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなど**についての技能を身に付けるようにする。
- ⇒【**知識及び技能**】
- イ **身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど**、数量に関心をもって関わる力を養う。
- ⇒【**思考力、判断力、表現力等**】
- ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
- ⇒【**学びに向かう力、人間性等**】

特別支援学校(知的障害)各教科の目標・内容では  
例)算数科(数量の基礎)1段階の内容

- イ ものともとのとを対応させることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア)次のような**知識及び技能**を身に付けること。
- ⑦ものともとのとを対応させて配ること。
  - ①分割した絵カードを組み合わせること。
  - ②関連の深い絵カードを組み合わせること。
- (イ)次のような**思考力、判断力、表現力等**を身に付けること。
- ⑦ものともとのとを関連づけることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること。

書籍を出版しました

社会に参加する力を育む **年間指導計画・単元開発**

**待望の第2巻!**

**障害の重い子供のための各教科の授業づくり2**

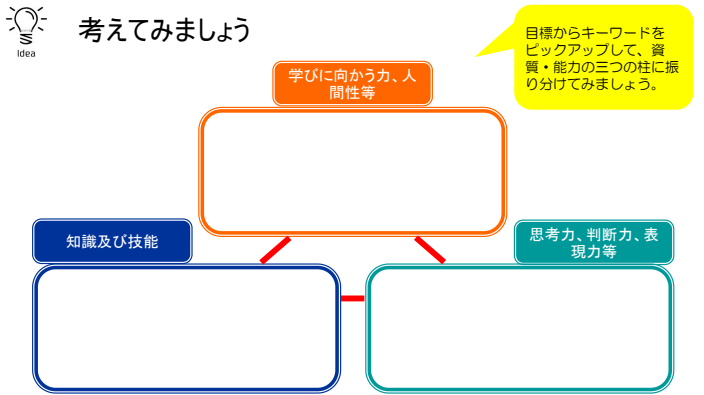
●監修 下山 進人 (筑波大学大学院特別支援教育研究科)

●編集 筑波大学附属特別支援学校

前巻からの要望に応え「障害の重い子供のための各教科の授業づくり」第2巻を発行。今回は前巻に続いて「授業づくり」に焦点を当て、改めてその考え方をポイントで整理。生活・保健・理科・音楽・体育・保健・生活・総合の各教科の授業づくりの考え方を、実践例とともに紹介する。また、その上で、各教科(国語・算数・科学・社会・理科・音楽・体育・保健・生活・総合)の授業づくりの考え方を、実践例とともに紹介する。

**悩みの解消の手がかりに!**

■B5判 148頁  
■定価 2,400円(税別 2,600円+税 10%)  
■ISBN 978-4-00717933-6



障害の重い子供のための各教科の授業づくり

- ・「鳥の目」で捉える
  - 教科の大体をざっくり捉える
  - 教科の系統をざっくり捉える
- ・乳幼児期にどのように学んできたか
  - 「これができないと次に進めない」というように学んでいたか?
  - 子供に裁量がない中で学んでいたか?

↓

子供に裁量がある中で、自ずと「対応」させたいような活動を用意する。その中で、「特定の事物を取り出している」「存在し続けることを理解している」「名称と特定の事物を結び付けている」「組み合わせている」ことが分かるような姿を具体的にイメージし、その姿が見られたら評価する。

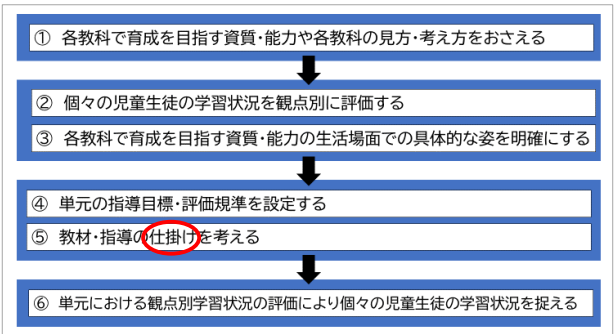


発達段階 × 生活年齢

～その授業、どちらにあわせていますか？～



筑波大学附属桐が丘特別支援学校  
教諭 成田 美恵子



筑波大学附属桐が丘特別支援学校 研究紀要 第57巻

教材の仕掛け

- ◇理解しやすい筋・起承転結  
経験からイメージできる筋  
文学作品に多い展開
- ◇登場人物の人数  
4人程度まで
- ◇挿絵  
注目すべきものが鮮明
- ◇シリーズ作品  
登場人物を捉える負荷の軽減
- ◇発達に沿った社会的・文化的作品  
授業から日常へ
- ◇魅力的な作品  
人に伝えたい＝言葉を駆使

指導の仕掛け

- ◇実感を伴う言葉を引き出す仕掛け  
動作化・表情化
- ◇言葉を大切に扱う仕掛け  
すぐに評価しない  
児童同士をつなぐ
- ◇主体者としての意識付けの仕掛け  
一定の学習活動の設定  
身近な人を巻き込んで、  
伝えたい気持ちを引き出す

各教科等  
の

資質・能力の効果的な育成を目指して

「自分にとっての意味のある言葉」を育てる(2025.7.31資料より)

一般的に言葉の意味とは

- ◇三人称的な側面  
その言葉が指し示す内容、語義。辞書に書かれている内容。
- ◇一人称的側面  
当人がその言葉が指す指示対象にどういう思いを持つに至っているか、  
どういう価値づけをするに至っているのかを示す。  
正解はなく、その人らしさや個性がにじみ出る。

コミュニケーションで  
他者に伝わるのは意味に含まれる  
感情や価値判断

言葉が指し示す対象が当人にとってどれほどの意味合いをもつもの(こと)かを自分で模索していくことなしに、世界に対して価値を付与しながら関わることはできない。

汐見稔幸「言葉の一人称的な意味化  
の機会を可能な限り拡大することが、  
言葉の教育の最大課題に」  
藤森裕治編著「これからの国語科教育  
はどうあるべきか」東洋館出版社  
2024年

確認と尊重を 学びの主体はだれ？

◇ 学びの価値を 学び手が 実感する体験を

◇ 学び手と関わり手が 共感することで  
学びの価値が より深まる体験を



◇ 「教授型」「授業イメージ」からの脱却

## 【各教科等3分解説】

### 目標と評価の観点について

令和7年度4月24日  
研究部

今回は、  
クイズはありません。

個別の指導計画の評価や  
指導要録（各教科）の記録が  
3観点になって、私たちもだいぶ  
観点別学習状況の評価に  
慣れてきましたよね！

そうですね！  
新年度になったので、また担当  
授業のシラバス、個別の指導計  
画の作成から始まるので、しっ  
かり設定していきたいですね！

それはそうと...  
今年は初任の先生の教科指導員に  
なったんです...

私は今年、年次研修を受講するので、  
研究授業をするんです...

ちゃんとできるかなあ...

そんな不安がある人も、ない人も、  
目標と評価の観点について、  
教科ごとのちがいについて、  
再確認していきましょう！！

はい！

今回は、  
目標と評価の観点についてお話しします。

はい！

評価の観点は、大きく3つに分かれていましたね。

知識・技能

！ 思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

では、どうして  
大きく3つに分かれているのでしょうか？

複数の観点から分析的に評価すると  
より具体的に、成果と課題が見え、  
次の学習や指導に活かすことができる  
からですね。

では、どうして  
大きく3つに分かれているのでしょうか？

その各観点の評価を的確に行うために  
観点ごとに評価規準をシラバスで  
設定していましたよね。

もうひとつのポイントは、  
観点ごとに設定する評価規準は、  
学習指導要領に示す目標の  
実現状況を判断するよりどころとなるもの  
ということです。

※よりどころ→ 根拠。物事が成り立つもとになるもの。

【育成を目指す資質・能力】

- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性等

学習指導要領では、教科等の目標・内容を三つの柱で再整理しています。



【育成を目指す資質・能力】

- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性等

【評価の観点】

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

つまり！！

目標あつての評価の観点！！



まさか！！  
【評価の観点】が3観点なのに、  
【単元（題材）の目標】が三つの資質・能力ごと（またはその内容を全て含む）になってない、  
なんてことないですよ？！



やばい...  
【評価の観点】は3観点...  
評価も3観点で...  
は、刷り込まれてたけど...

今まで単元目標は、そこまで細かく書いてなかったです...

【Point】

- ①単元（題材）の目標は、三つの資質・能力ごとに作成する。（またはそれらの内容を全て含む）
- ②単元目標に対応した評価規準を作成する。

※評価規準の作成方法は【特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料】等を参照してください。



【育成を目指す資質・能力】

- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性等

【評価の観点】

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

【Point】指導案では...

6. 単元（題材）目標

- 身の回りにあるものや自然を生かした遊びについて関心を持つ。  
（知識および技能）
- 遊びを通して身の回りにあるものの仕組みや働きに気づき、それを教師や友だちに伝える。  
（思考力・判断力・表現力等）
- 身の回りにあるものや自然を生かした遊びに自ら取り組み、声や言葉、表情や身体の動きで思いを表現する。  
（学びに向かう力、人間性等）

7. 単元（題材）の評価規準

| A 知識・技能     | B 思考・判断・表現 | C 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------|------------|-----------------|
| 【ものの仕組みと働き】 |            |                 |

分かってるつもりでしたが、うっかりポイントでしたね！

これは、初任の先生にもアドバイスできそうです！



次回は、  
教科ごとの目標や観点の違いについて  
お伝えします！

ええ??!!  
教科や段階によって  
「三つの資質・能力」「3観点」  
ではないものがあるって??!!  
これは次回からも必見ですね！

おしまい



研究部Presents

## 【各教科等3分解説】

### 教科ごとの 資質・能力と評価の観点について (体育科・保健体育科編)

令和7年度5月26日  
研究部

今回も  
クイズはありません。

前回の3分間解説で、  
「単元（題材）目標も  
三つの資質・能力ごとに作成！」  
（または全ての内容を含む）  
がわかりましたね！

目標も三つ （または全ての内容を含む）、  
評価の観点も三つ、  
評価の観点の評価規準も三つ、  
評価も三つ （または全ての内容を含む）！  
これで完璧ですね！！

ちょっと待った！

今回も  
落とし穴に  
はまっています！

え？！

何がちがうんですか...

よく「三つの資質・能力」  
「3観点」と言われますが...

実は、教科や段階によって  
「三つの資質・能力」  
「3観点」の中で  
細かく分かれるものがあるんです！

は？！

今回と次回で、

○図画工作科 （小学部）、美術科 （中学部・高等部）

○体育科 （小学部）、保健体育科 （中学部・高等部）

について解説していきます。

#### 【育成を目指す資質・能力】

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、  
人間性等

#### 【評価の観点】

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度

#### 図画工作科、美術科

#### 【育成を目指す資質・能力】

知識

及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、  
人間性等

#### 【評価の観点】

知識

技能

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度





**体育科、保健体育科** ※体育科小学部3段階～

【育成を目指す資質・能力】

|              |      |               |    |
|--------------|------|---------------|----|
| 知識           | 及び技能 | 知識            | 技能 |
| 思考力・判断力      | 表現力等 | 思考・判断         | 表現 |
| 学びに向かう力、人間性等 |      | 主体的に学習に取り組む態度 |    |

※（知）体育科・保健体育科の場合は、学習指導要領の目標・内容・指導事項等には分かれていることは明記されていません。読み取る努力が必要です。



**図画工作科、美術科**

【評価の観点】

知識 技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

**体育科、保健体育科** ※体育科小学部3段階～

【評価の観点】

知識 技能

思考・判断 表現

主体的に学習に取り組む態度

今回は  
体育科（小学部）、  
保健体育科（中学部・高等部）  
について  
解説していきます。



**体育科、保健体育科** ※体育科小学部3段階～

【評価の観点】

知識 技能

思考・判断 表現

主体的に学習に取り組む態度

**体育科、保健体育科**

体育科の場合、  
「特別支援学校小学部・中学部  
学習評価参考資料」に、  
観点ごとのポイントとして、  
「知識」と「技能」、  
「思考・判断」と「表現」を  
それぞれ作成することが  
示されています。

※小学部3段階～

【特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料p.68】



**体育科 小学部 3 段階**

(2) 「内容」

B 器械・器具を使っでの運動

ア 器械・器具を使っでの基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。

イ 器械・器具を使っでの基本的な運動の行い方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。

【特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）小学部体育科3段階より抜粋】  
【特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料p.67】

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の  
観点ごとのポイント

「知識・技能」のポイント

- 「知識」については、学習指導要領の内容の（中略）「その行い方を知り」と示している部分が該当し、評価規準は「～の行い方を知っている」として作成することができる。
- 「技能」については、「基本的な動きを身に付ける」としている部分が該当し、評価規準は「～基本的な動きを身に付けている」として作成することができる。

**体育科 小学部 3 段階**

(2) 「内容」

B 器械・器具を使っでの運動

ア 器械・器具を使っでの基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。

「知識」 に該当

「技能」 に該当

【特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）小学部体育科3段階より抜粋】  
【特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料p.67】

## 「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断」については、学習指導要領の内容の（中略）「～基本的な運動の行い方を工夫する」と示している部分が該当し、評価規準は「～の基本的な運動の行い方を工夫している」として作成することができる。
- ・「表現」については、「考えたことや気付いたことなどを他者に伝える」と示している部分が該当し、評価規準は「考えたことや気付いたことなどを他者に伝えている」として作成することができる。

## (2) 「内容」

## B器械・器具を使つての運動

「思考・判断」に該当

イ 器械・器具を使つての基本的な運動の行い方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。

【特別支援学校学習指導要領解説各教科等】  
【特別支援学校学習指導要領解説各教科等】

「表現」に該当

小学部3段階以上の  
体育科・保健体育科  
では、観点が分かれて  
いましたね。



※体育科小学部3段階～

### 【評価の観点】

知識

技能

### 思考·判断

## 表現

主体的に学習に  
取り組む態度



目標や評価の観点が細かく分かれることがあるので、

学習指導要領解説や学習評価参考資料で

確認しましょう。





## 研究部Presents

### 【各教科等3分解説】

#### 教科ごとの 資質・能力と評価の観点について② (図画工作科・美術科編)

令和7年度6月24日  
研究部

今回は、  
クイズはありません。



前回の3分間解説で、  
教科やその段階によっては、  
資質・能力や評価の観点が  
細かく分かれていることが  
わかりましたね！

今回は、図画工作科（小学部段階）・  
美術科（中学部・高等部段階）の  
説明を聞いてみましょう！



#### 【育成を目指す資質・能力】

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、  
人間性等

#### 【評価の観点】

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度

#### 図画工作科、美術科

#### 【育成を目指す資質・能力】

知識 及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、  
人間性等

#### 【評価の観点】

知識 技能

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度

#### 図画工作科、美術科

#### 【評価の観点】

知識 技能

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度

では、なぜこのように  
なるのか、  
見てみましょう！



#### 図画工作科、美術科

#### 知識

#### 図画工作科、小学部1段階

#### 技能

#### (1) 目標

ア 形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。

○形や色などに気付き、材料や用具を使おうとする」について

「形や色などに気付き」とは、「知識」について示している。  
(中略)

「材料や用具を使おうとする」とは、「技能」について示している。

【特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）小学部図画工より抜粋】

#### 図画工作科 小学部1段階

#### 教科目標

柱書

(1) 知識 及び技能 (2) 思考力 判断力・表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等

#### 段階ごとの目標

ア 知識 及び技能 イ 思考力 判断力・表現力等 ウ 学びに向かう力、人間性等

#### 段階ごとの内容・指導事項

#### A表現

ア 思考力・判断力・表現力等

イ 及び技能

#### B鑑賞

ア 思考力 判断力・表現力等

#### 【共通事項】

ア 思考力・判断力・表現力等

イ 知識

#### 図画工作科、美術科

#### 図画工作科 小学部1段階

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」を  
作成する際の観点ごとのポイント

「知識」について

・「知識」は、【共通事項】ア(ア)から作成する。

・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。

「技能」について

・「技能」は、「A表現」ア(イ)から作成する。

・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。

【特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料p.60】

図画工作科・美術科は、

知識にあたる目標・評価規準の設定が抜けがちです。

注意して  
設定していかないと  
いけませんね！



内容・指導事項や〔共通事項〕の資質・能力、  
評価規準の作成例などについての説明は

[別紙（『図画工作科編』解説詳細 気になる人は見てね.pdf）](#)

に掲載しています。ご興味ある先生は、  
一度確認してみてください。



鑑賞のみの題材の場合は、

製作（制作）は行わないので、

技能にあたる目標・評価規準の設定は不要です。



知識

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度



教科によって、本当にいろいろと  
違うんですね！！

その教科ならではの  
大切なポイントなので、  
丁寧に確認して、目標や評価規準  
を設定していきたいですね！！



前回と今回でご紹介した  
体育科（保健体育科）、図画工作科（美術科）以外にも、  
資質・能力と評価の観点が  
細かく分かれる教科があります。



音楽科がそのひとつになります。

音楽科も知識と技能が分かります。

そうだったんですね！！  
これは、今年自分が担当する教  
科が、どのような資質・能力  
なのか丁寧に確認した方が  
よさそうですね！！



教科や段階によって異なることがあるので、

学習指導要領解説や学習評価参考資料で  
確認しましょう。



おしまい



## 研究部Presents

### 図画工作科・美術科 資質・能力と評価の観点について ＜追加資料＞

研究部

#### 図画工作科、美術科

【育成を目指す資質・能力】

知識

及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、  
人間性等

【評価の観点】

知識

技能

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度

#### 図画工作科、美術科 知識

#### 図画工作科、美術科 技能

(1) 目標

**ア 形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。**

イ 表現したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする。  
ウ 進んで表現したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに  
気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しよ  
うとする態度を養う。

1段階の目標のアは、「知識及び技能」に関する目標であり、「知識」につ  
いては【共通事項】アの(ア)、「技能」については「A表現」のアの(イ)に対  
応している。

#### 図画工作科、美術科 知識

#### 図画工作科、美術科 技能

(1) 目標

**ア 形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。**

○「形や色などに気付き、材料や用具を使おうとする」について

「形や色などに気付き」とは、「知識」について示している。

(中略)

「材料や用具を使おうとする」とは、「技能」について示している。

【特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）小学部図画工より抜粋】

#### 図画工作科、美術科

#### 図画工作科、美術科

(2) 内容

A 表現

ア 線を引く、絵をかくなどの活動を通して、次の事項を身に付けること  
ができるよう指導する。

(ア) 材料などから、表現したいことを思い付くこと。

**(イ) 身の回りの自然物などに触れながらかく、切る、  
ぬる、はるなどすること。**

(イ) は、「知識及び技能」のうち「技能」について示している。

#### 図画工作科、美術科

#### 図画工作科、美術科

【共通事項】

ア 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けること  
ができるよう指導する。

**(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色など  
の違いに気付くこと。**

(イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

**(ア) の事項は、「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して  
育成する「知識」について示している。**

## 【共通事項とは？】

造形的な視点を豊かにするための  
指導事項として【共通事項】が示されています。  
内容構成から確認していきましょう。

### 図画工作科・美術科の「造形的な視点」

#### 内容の構成について

・全校種（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校全学部）共通

領域

A 表現

B 鑑賞

指導事項

【共通事項】

小学校：図画工作、音楽  
中学校：美術、音楽

高等学校：芸術科（美術、音楽、工芸、書道）  
支援学校：図画工作、美術、音楽

### 質問③図画工作科・美術科の「造形的な視点」

#### 図画工作科・美術科の【共通事項】について

【共通事項】の共通とは、「A表現」と「B鑑賞」の  
2領域およびその項目、事項のすべてに共通する  
という意味である。

【特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）中学部美術より抜粋】

小学校：図画工作、音楽  
中学校：美術、音楽

高等学校：芸術科（美術、音楽、工芸、書道）  
支援学校：図画工作、美術、音楽

質問③図画工作科・美術科の「造形的な視点」

図画工作科・美術科の【共通事項】について

「A表現」及び「B鑑賞」の指導においては、  
【共通事項】がどのような学習場面にも含まれている事項  
として捉え、指導や評価を具体化する必要がある。

【特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）小学部図画工作 中学部美術  
1図画工作科、美術科改訂の要点 3各段階の目標及び内容（2）各段階の内容p.192、p.414】  
【特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（下）（高等部）  
1美術科改訂の要点 3各段階の目標及び内容（2）各段階の内容p.31】

図画工作科・美術科の【共通事項】について

小学校 中学校 **New** 高等学校 **New** 特別支援学校（知）



特別支援学校各段階の  
【共通事項】の具体的な内容は、  
指導要領、解説、「内容・目標の一覧」  
をご確認ください。



図画工作科・美術科の【共通事項】について

ア→形や色などに関する事項

形や色彩、材料、光などそれぞれの造形の要素に視点を当て、それらがもたらす効果などについて理解すること

イ→イメージに関する事項

造形的な特徴などから全体のイメージや作風などで大きく捉えるということ



※どの資質・能力にあたる指導事項なのかは、学校種や学部によって異なります。

図画工作科、美術科 図画工作科 小学部1段階

評価の観点及びその趣旨

【1段階】

| 知識・技能                              | 思考・判断・表現 |
|------------------------------------|----------|
| ・形や色などに気付いている。<br>・材料や用具を使おうとしている。 | 知識<br>技能 |

【特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料p.55】

図画工作科、美術科 図画工作科 小学部1段階

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の観点ごとのポイント

「知識」について

- ・「知識」は、【共通事項】ア(ア)から作成する。
- ・文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している」とする。

「技能」について

- ・「技能」は、【A表現】ア(イ)から作成する。
- ・文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している」とする。

【特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料p.60】

図画工作科、美術科 【内容のまとまりごとの評価規準例】

|               |                                               |
|---------------|-----------------------------------------------|
| 知識            | 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付いている。           |
| 技能            | 身の回りの自然物などに触れながら、切る、ぬる、はるなどしている。              |
| 思考・判断・表現      | 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料などから、表したいことを思い付いている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | つくりだすことの楽しさに気付き進んで表す学習活動に取り組もうとしている。          |

【特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料p.61】

このように、教科や段階によって  
目標や評価の観点が異なることがあるので、  
学習指導要領解説や学習評価参考資料で  
確認しましょう。

おしまい



## 研究部Presents

### 【各教科等3分Quiz】

～ 観点別評価規準について～

3分程度お時間  
いただきます

令和7年度 研究部

## 基本的な観点別評価規準の設定の仕方

### ①評価規準とは？

### ②基本的な観点別評価規準の設定の手順

特別支援学校小学部・中学部  
学習評価参考資料



令和2年4月  
文部科学省

この資料には、  
各教科の各段階ごとの  
観点の趣旨  
(評価の対象になるものを整理したもの)と  
評価規準の設定の仕方  
について示されています。

特別支援学校小学部・中学部  
学習評価参考資料  
(令和2年4月 文部科学省)

### ①評価規準とは？

そもそも評価規準とはどのようなものだったで  
しょうか？

評価規準とは、学習指導要領で示された  
目標とする資質・能力の実現状況を判断するため  
の評価の「よりどころ」になるものでしたね。

※ちなみに『評価規準』（成長の姿として文章表記したもの）と『評価基準』（評価  
規準に対して習得状況の程度を示すための指標）は異なるものです。変換ミスにご注意を。

### ②基本的な観点別評価規準の設定の手順

- ①教科の目標を確認（学習指導要領）
- ②教科の段階の目標を確認（学習指導要領）
- ③各教科・段階の観点の趣旨を確認（参考資料）
- ④各教科の内容を確認（学習指導要領）
- ⑤観点ごとのポイントを確認（参考資料）

それでは早速、やってみましょう！  
「評価規準」に関する問題です！

### 【問題】

国語科 単元「絵本を楽しもう」の評価規準と  
あてはまる観点とを線で結んでください。

国語科 単元「絵本を楽しもう」（小学部Ⅰ段階）

知識  
技能

絵本を見て、知っている事物や出来事などを指さし  
などで表現する。

思考力  
判断力  
表現力

言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使  
おうとする。

主体的に学習  
に取り組む  
態度

読み聞かせに注目し、いろいろな絵本に興味を持  
つ。

あと30秒

正解は……

国語科 単元「絵本を楽しもう」（小学部Ⅰ段階）

知識  
技能

絵本を見て、知っている事物や出来事などを指  
さしなどで表現する。

思考力  
判断力  
表現力

言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、  
言葉を使おうとする。

主体的に学習  
に取り組む  
態度

読み聞かせに注目し、いろいろな絵本に  
興味を持つ。

目標や評価規準を設定する際には、  
必ず、学習指導要領や学習指導要領解説で  
教科目標や段階の目標、内容とその解説、  
評価の観点の趣旨などを確認することが大切！



おしまい





## 【3分間動画】

全校研究・授業づくり研修について

令和7年度12月  
研究部

今回は、  
クイズはありません。

今年度の全校研究のテーマは...

## 発達 の 段階 × 生活年齢

～その授業、どちらに合わせていますか？～

授業づくり研修について

授業づくり研修

授業名：中学部 Bコース「ことば・かず」  
授業者：酒井先生

授業づくり研修に多数の応募をいただき、  
本当にありがとうございました！

「ことば **かず** (国語・数学・外国語)」

授業実践者  
中学部  
酒井先生

学習グループ  
中学部Bコース  
中1～中3  
5名

グループの実態

基本的な生活習慣を確立するとともに、身辺自立をめざしたり、コミュニケーション手段を増やし、自分の気持ちや要求を他者に伝えることを、目標にしている生徒が在籍しています。

授業・教材紹介

導入：ものがたり「くだものころりん」

展開①：くだものはどっち？  
2つの箱からくだものを探す。

展開②：おべんとうバス  
目の前で雲に隠されたお弁当の具材を探す。

工夫したところ（1）

- ・導入では、しかけ絵本で生徒が興味・関心をもちやすくできるようにした。
- ・展開①では、絵本に出てきたくだものを使用し、生徒が扱いやすい大きさの教材にした。はじめは正解の箱をふって音を鳴らしてヒントを伝えた。少しずつ音を無くしたり、布でかくしたりして難易度をあげた。様々な教師が物語に参加することで聞くことについての興味を高められるようにした。

工夫したところ（2）

- ・展開②では、歌で生徒の興味関心を促した。
- ・目標を達成するために歌や物語を取り入れた。歌や物語は生徒たちの生活年齢には合わないが、目標を達成するための導入として使った。

## 生徒の様子

授業のはじめは机に顔をふせている生徒もいたが、しかけ絵本や物語・歌が始まると積極的に授業に参加することができ、課題にも取り組むことができた。



## 授業者の感想

絵本や歌の内容が生活年齢と合わなくても課題やねらいと合うのであれば生徒たちにも大きな学びの時間になると感じた。



詳しい内容の発表は  
12月の全校研究でお伝えいたします。



## 今後の予定

全校研究①（7月22日）

——昨年度の振り返り、今年度のテーマについて

全校研究②（7月31日）

——教科とテーマについて（桐が丘特別支援学校 講師より）

全校研究③（12月）

授業報告、振り返り

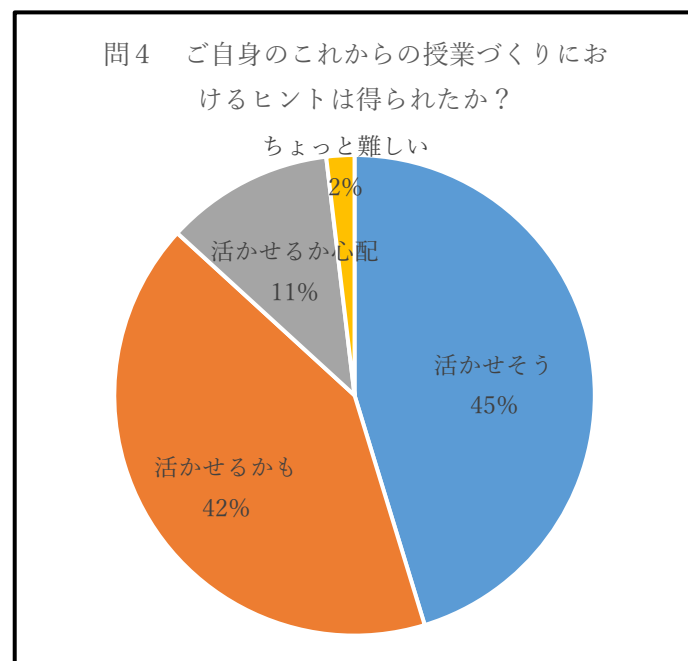
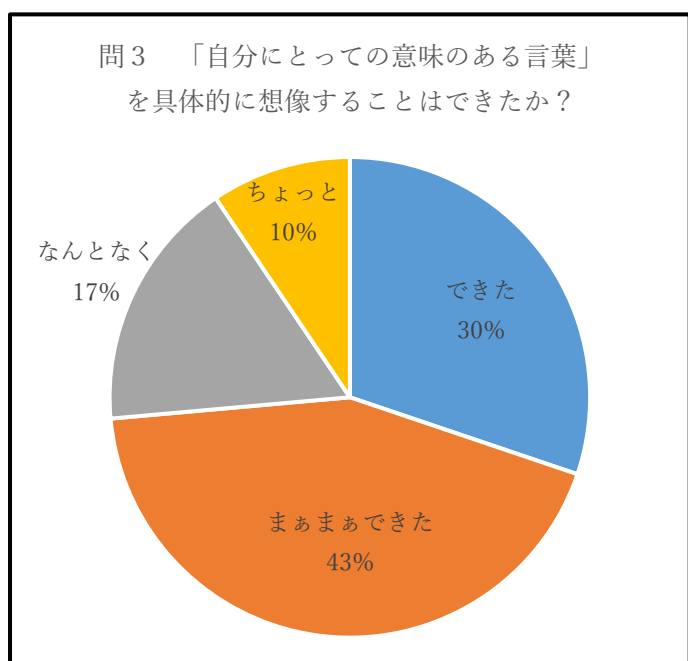
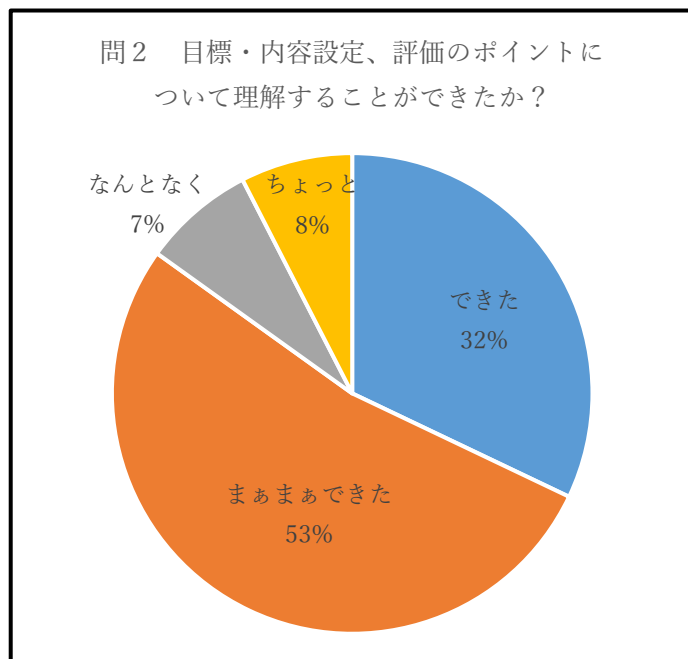
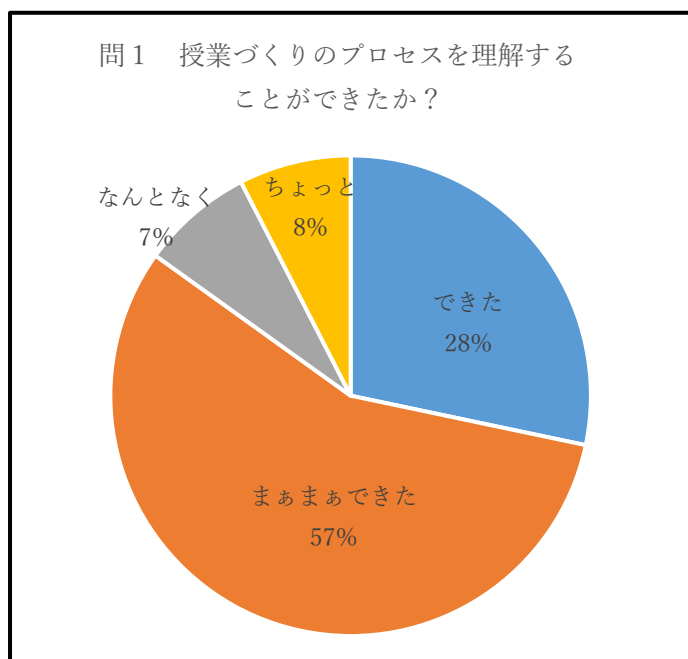
全校研究④（1月）

講評（桐が丘 特別支援学校 講師より）



## まとめ

第3, 4回の研修終了後のアンケートより、今年度の研修の成果について集約を行った。その結果が以下の通りである。(全回答数：55)



各回研修後のアンケートでは、「授業づくりのプロセス」や「目標・内容設定、評価のポイント」、「発達の段階×生活年齢」の理論についての理解度の肯定率は高かった。

問4から、理論を実践に活用することへ「活かそう」「活かせるかも」と、肯定的な回答をした教員が87%いることに対し、「活かせるか心配」「ちょっと難しい」と自身の授業に活用することへ不安感があると回答した教員が13%いることも明らかになった。

次年度以降、フォローアップとして全校研究や3分間動画などの座学だけでなく、実践を通して理論を具体的に普段の授業づくりに反映できる仕組みを検討し取り組んでいきたい。

## Ⅱ. 自立活動支援部

令和7年度の全校研究について

# 「自立活動の実践事例」

自立活動部

## 事例 1

人工呼吸器使用の重症心身障がい児における「抗重力姿勢」と「移動経験」

中学部教諭 近藤 裕志

### I. はじめに

本稿は、重症心身障がいのある人工呼吸器使用児 1 名を対象に、抗重力姿勢への段階的介入（SRC-W、膝立ち〔改造立位台〕、楽スタ〔スパイダー〕、電動移動支援装置〔Carry rocomotor〕）を通して、①身体感覚（身体位置の把握・動きの因果理解）、②自発的行動・意欲、③覚醒、④生理指標（SpO<sub>2</sub>・脈拍・呼吸器離脱）および日常生活（登校・体調）に生じた変化を整理する。

本児は小 3 で新型コロナ感染後に体調不安定が顕著となり人工呼吸器常時装着へ移行した。以降、自立活動は排痰対応が中心となり、姿勢経験や活動参加が制限されていた。そこで本実践では、良姿勢獲得や筋力強化を目的化せず、「身体がどこにあり、どう動いているか」を感じ取る経験を、教育的にデザインすることを中心に据えた。

びわこ学園の高塩純一先生が述べるように、重症児では固有受容覚や前庭覚と視覚の統合が成立しにくく、身体が動いている／いない境界が曖昧な状態（ゼロキネステーズ）に陥りやすい。抗重力姿勢を段階化して「留まれる」「動く」と結果が返る」「自分の動きで環境が変わる」という経験を積むことは、覚醒・主体性・参加の改善へ波及すると考えられる。また移動経験は、認知・社会性の基盤形成に影響すると発達心理学者ジョセフ・J・カンボス先生は提唱している。

本稿では、段階的姿勢介入と移動経験が、ゼロキネステーズの改善過程とどのように関連したかを、実践経過と結果から検討する。

### II. 対象児と方法

#### 1. 対象児

中学部 1 年在籍、12 歳男児。基礎疾患：滑脳症、側弯症、気管支喘息、点頭てんかん。医療的ケア：人工呼吸器常時、酸素療法 1.0L/分。体調変動が大きく、入退院を反復。関心対象への注視・追視、笑顔による応答など対人反応は良好だが、姿勢保持困難と低覚醒が行動表出を妨げる場面があった。保護者の願いは、体調を崩さず登校を安定させ、表現と活動の幅を広げることにあった。

#### 2. 実態

呼吸面：痰貯留・喘息発作があり、体位変換や覚醒変動で SpO<sub>2</sub>が揺れやすい。活動は「悪化させない」運営となりやすかった。

姿勢・運動面：随意運動はみられるが姿勢基盤が不安定で、見よう・動こうとすると反りが出現しやすい。反りは抑制対象というより、意図を成立させる代償的運動として理解した。

認知・コミュニケーション面：理解・関心はあるが、視線安定や覚醒に左右されやすい。

### 3. 介入（段階的アプローチ）

- (1) SRC-W（小5～小6）：軽度前傾位で「留まれる」姿勢と視界の安定を優先。排痰促進も目的に含めた。
- (2) 膝立ち（小6）：改造立位台＋体幹支持具で膝立ち環境を構成。上肢操作と視線の協応、動きの因果理解を狙った。
- (3) 楽スタ（中1）：呼吸器離脱を伴うが、重力軽減下で「自分で支える」経験を増やし、身体感覚の明確化を狙った。
- (4) 電動移動（中1）：スティック操作で自己移動を経験し、「自分の動きが環境を変える」強いフィードバックを得ることを目的とした。

### 4. 評価方法

実践記録（行動観察）、活動中の SpO<sub>2</sub>・脈拍、呼吸器離脱の可否と時間、日常生活（登校状況・入院頻度・排痰の様子）を継続的に整理した。

## III. 結果

### 1. 姿勢経験と行動の変化

SRC-W 導入後、反りに依存せず視界を確保できる時間が増え、顔を正中へ向けて注視する場面が増加した。

膝立ちでは「注視→確認→手を動かす」という順序が明確になり、対象へ働きかける試行が増えた。反りは残るものの、環境への操作を成立させるための探索行動として機能した。

中学部では、ベッド上でも上肢を顔前に持ち上げて自分の手を見る動作が自然に出現し、動き出しの明確さが増した。

### 2. 意欲・自発的表出

笑顔や身振り応答が増え、反応の速さが向上した。場面によっては活動前に手を上げるなど、意思表示の萌芽がみられた。下校時に自発的に手を振る行動も観察され、参加への期待や安心感が形成されたと考えられた。

### 3. 生理指標・離脱の安定

SRC-W では SpO<sub>2</sub> が 98～100% で安定し、脈拍が安静時水準へ近づく場面があった。膝立ちでも SpO<sub>2</sub> は良好で、活動後に排痰が促され呼吸状態が整う傾向がみられた。

楽スタでは呼吸器離脱 30～40 分が安定し、SpO<sub>2</sub> 100%、脈拍は睡眠時水準（50～70 台）へ低下した。揺れ刺激に対する協応的な姿勢調整や、視線の上げ下げ・足の踏ん張りなど自発的運動のバリエーションが増えた。

電動移動では SpO<sub>2</sub> 99～100% を維持し、脈拍は軽度上昇した（興奮に伴う反応と解釈）。移動中は痰の上昇が抑えられ、終了後に排痰が促される特徴があった。

### 4. 日常生活（登校・体調）

肺炎・入院の頻度が減少し、小学 6 年以降は登校が安定しやすくなった。日中活動への移行が円滑となり、授業中の注目持続や切り替えの改善がみられた。

## IV. 考察

### 1. 抗重力姿勢とゼロキネステーゼ



本児は、理解や関心を有していても、姿勢・呼吸・覚醒が整わないと行動が表出しにくい状態にあった。反りは「異常」として単純に抑えるべきではなく、身体位置の曖昧さ（ゼロキネステーズ）下で意図を成立させる代償として生じていた可能性が高い。

SRC-W で視界と身体の安定が得られたことは、視覚と身体感覚の結びつきを強め、「反りに依存せずに見る」経験を蓄積する基盤となった。膝立ちは支持基底面を変化させ、身体位置を捉えながら環境へ働きかける探索を促した。

さらに楽スタは、重力軽減下で「自分で支える」経験を可能にし、わずかな揺れへの協応反応や自然な運動の増加を引き出した。これは、自分の動きが身体へ返ってくる条件を整え、身体—環境の境界感覚（ゼロキネステーズの改善）を成立させる環境となったと解釈できる。結果として、抗重力姿勢の安定化→身体位置の把握→動きの主体化という循環が形成され、視線移動の速さや自発的表出の増加として表れたと考えられる。

## 2. 移動経験の教育的意義

電動移動は、単なる移動手段ではなく、「自分の動きが景色を変える」強いフィードバックを提供した。発達心理学者ジョセフ・J・カンポス先生が示すように移動経験は認知・社会性の基盤形成に関与し、移動支援が生活の質や機能に影響し得ることを示している。本児においても、移動中の集中表情と笑顔、移動後の覚醒上昇や注目持続の改善は、主体性と参加を引き上げる経験として機能したと考えられる。

また「移動中は痰が上がり、終了後に排痰が促される」反応は、動きの制御へ注意が向き、過緊張や咳反射が抑えられた可能性を示唆する。抗重力姿勢で培われた身体感覚の土台に移動経験が加わることで、身体—認知—情動の統合が促進されたと捉えられる。

## V. まとめと課題

人工呼吸器使用の重症心身障がい児に対し、抗重力姿勢（SRC-W、膝立ち、楽スタ）と電動移動の段階的経験を提供した結果、①身体感覚の明確化（視界・身体位置の安定）、②自発的行動と意欲の増加、③覚醒の改善、④SpO<sub>2</sub>・脈拍・離脱の安定、⑤登校と体調の改善が確認された。重要なのは、姿勢や装置を目的化せず、「感じられる姿勢」「動く結果が返る環境」を教育として組み立てた点である。

今後の課題は、(1)身体感覚の変容を捉える評価指標の不足（視線・姿勢・動作の記録方法の整備）、(2)体調変動と活動量の適正化（医療的連携と可視化）、(3)移動経験を教育課程へ継続的に位置づける運用設計（環境・動線・安全管理）、(4)多職種・家族との目標共有の深化、(5)他事例への適用可能性の検討である。

抗重力姿勢と移動は、重症児にとって「世界とつながるための学習活動」であり、身体感覚・情動・認知・意欲を統合的に育てる自立活動の核となり得る。今後も、日々の体調に応じた段階化と環境デザインを通して、参加と主体性を支える実践を積み重ねたい。

## 事例 2

大阪府立住之江支援学校「支援のための発達アセスメントチェックリスト（A<sup>2</sup>）」を活用した自立活動

高等部教諭 小倉 有香

### 1. はじめに

「支援のための発達アセスメントチェックリスト（A<sup>2</sup>）」の概要は以下の通りである。

#### 【大阪府立住之江支援学校「支援のための発達アセスメントチェックリスト（A<sup>2</sup>）」】

子ども・支援者の両方にとって役に立つ「個別的教育支援計画」の様式として作成されたツール。

A<sup>2</sup>とは、評価のアセスメントのAと支援の配慮や調整という意味のアコモデーションのAとで、2つのAが内包されているという特徴を表す。

目的：知的な発達の観点と学習指導要領に対応した「支援のための発達アセスメント」

対象発達年齢：①0～5歳程度の知的発達 ②小学生程度の知的発達 ③10歳以上の知的発達

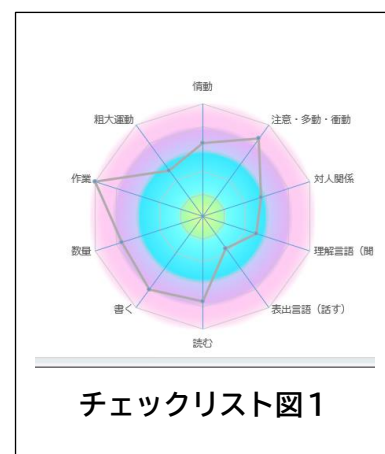
領域：①－「情動」「注意・多動・衝動性」「対人関係」「理解言語（聞く）」「表出言語（話す）」「読む」「書く」「数量」「作業（微細運動）」「粗大運動」「身辺自立」  
②－「情動」「注意・多動・衝動性」「対人関係」「理解言語（聞く）」「表出言語（話す）」「読む」「書く」「数量」「作業（微細運動）」「粗大運動」  
③－「共感性・対人関係」「衝動性・ルールの遵守」「セルフエスティーム」「読む」「書く」「数量」「社会参加」

### 2. 実態・取組

高等部・生活課程 男子生徒 A

Aは非常に優しい性格であり、いつも穏やかに過ごしている。対人関係においては、教員とは会話を共有するが、自分から友だちに関わることは多くない。また、嫌がるようなことをされた場合においても、それに対して反応することも少ない。

AのチェックリストA<sup>2</sup>を図1に示す。チェックリストからは、粗大運動・表出言語・対人関係で落ち込みが見られた。体育の授業においても、フライングディスクを相手と逆方向に投げたり、自転車のペダルを逆方向に回したりするなど、ボディイメージの低さが原因と考えられる行動が見られた。



Aは歩行時に左足が少し開いており、右足に比べて筋肉を使わない歩き方になっている。

足の筋力強化を行うトレーニングに取り組んだ。

- ① 椅子に座り、左足を少し後ろに下げた状態で、ゆっくり立ち上がる・ゆっくり座る動作を繰り返す。
- ② 筋肉への負担を高めるために、①を行う際、膝の動きに注目し、膝が左右に逃げないように（膝をまっすぐ

動かすように）声をかける。

③ ①のトレーニングの後に、階段の昇降をゆっくり行う。

また、ボディイメージの低さが見られることから、ボディイメージ形成に向けたトレーニング方法としては、以下の3つに取り組んだ。

① 腕や足を動かす動画を見ながら、実際に動く。

② 自分の動きを確認できるように、鏡の前で体を動かす、iPad で動きを撮影する。

③ 自分の動きを確認するなかで、イメージとのずれが見られる場合は、どのようなずれがあるかをフィードバックして、その動作を繰り返し練習していく。

A と相談し、昼休みの時間を利用して、「椅子から立つ・座る」の練習に取り組んだ。また、教員が足の動きを伝えたり、階段をゆっくり降りるように言葉かけをおこなったりした。A の動きを撮影し、本人にフィードバックしながら動きについて確認した。

### 3. まとめ

1 ヶ月継続していく中で、A は身体の使い方が意識できるようになりつつあると感じている。一方で、A はすぐに楽な姿勢に戻ってしまうところも見られた。

A 本人は、動きやボディイメージに対する困り感はないが、保護者からは改善を希望する話を聞いている。今後も A 本人ともやりとりを続け、保護者と連携を取りながら、ボディイメージの形成に向けた活動を継続していきたい。

# Ⅲ. 実践報告

授業名：理科社会（高等部 学校設定科目）

さかのぼり日本史

## さかのぼり日本史（通史）学習法

### ◆はじめに

歴史の流れは川の流れにたとえられます。大阪の人が淀川を知るのに、上流から調べますか、下流から調べますか？下流から遡って調べていこうとするのが大半かと思います。

しかしながら日本史の学習は、縄文時代から順を追って、現代へとしていくやりかたが普通です。

また、“十三大橋が河口より 7.0 km、枚方大橋が河口から 25.6 km”このキロ数を覚えようと言ったら面白くなりませんか？

歴史学習では、1868 年に明治政府の成立など、〇〇年に△△とその年号を覚えましょうとなりがちです。

歴史を学ぶ意味を踏まえて、上記 2 点の歴史学習を面白く無くしている事を考えて、この歴史の授業を行っています。

### ◆歴史を学ぶ意味

歴史を学ぶ意味は何でしょうか？“歴史は繰り返す”と言われるように過去の事例を考えると、未来を予想することができます。歴史を学ぶ理由は“未来を知ること”と私は考えています。授業実践でも第一回目は、約 100 年前のスペイン風邪→インフルエンザとコロナウイルス感染症（COVID-19）を比べて、似ていることを取り上げ、歴史を学ぶ意味を話してから授業を始めました。

また、奈良時代の歴史とロシア→ソ連→ロシアの歴史と比較すると、よく似ていることに気が付きます。

日本

| 年号  | 出来事     | 内容                                |
|-----|---------|-----------------------------------|
| 645 | 大化の改新   | 有力豪族を殺害し、天皇中心の政治に変えた              |
| 701 | 大宝律令の制定 | 公地公民＝(すべての土地と人は天皇のもの)とする律令制が確立された |
| 723 | 三世一身の法  | 開墾した土地の私有を条件付きで認める                |
| 743 | 墾田永年私財法 | 土地の私有を認める                         |

ロシア

| 年号   | 出来事       | 内容                   |
|------|-----------|----------------------|
| 1917 | ロシア革命     | 皇帝を倒して社会主義国家の樹立した    |
| 1918 | ソビエト憲法の採択 | 国が資本を管理して平等にする体制となった |
| 1986 | グラスノスチ    | 市場経済を一部認める           |
| 1991 | ソ連邦の崩壊    | 市場経済へ                |

※この比較は、授業でも取り上げています

#### ◆茨木支援学校高等部生活課程社会科

茨木支援学校は肢体不自由のある児童生徒を対象とした支援教育を主に行っていますが、高等部のみ知的障がいの生徒を対象とした生活課程があります。生活課程では、1年次地理的分野、2年次公民的分野、3年次歴史的分野で授業を行っています。

また、週あたりでは、35分×2コマで、社会・理科の授業を行っています。

学年で学習グループに分けて授業を行っており、今回取り上げる授業実践は軽度のグループであります。

#### ◆さかのぼり歴史学習

現代から過去へと時系列をさかのぼっていく学習方法です。AはBが起きたから、BはCが起きたからとしていきます。

・今の日本の豊かな暮らしは、高度経済成長があったから。

↓

・高度経済成長は、第二次世界大戦で焼け野原となり、経済優先の政策をとったから。

↓

・第二次世界大戦は、日清日露戦争の成功体験から。

遡っていくことにより、現在からのつながりがわかり、歴史を身近なものと感じ、興味を持てるようになります。また歴史の流れをつかみやすくなります。

#### ◆年号は使わない

さかのぼり学習では、歴史の事象ごとに授業を区切り、その事象ごとに何が起こったのかを説明し、次回なぜ起こったのかを学習していきます。そこで授業は何が起こったのか？からその教訓を考え、現在にどう生かされているかを問いかける授業を組み立てました。

そのため、歴史の流れを把握しやすくなるので、年号を使わずに、授業を進めることができました。

#### ◆高等学校では難しい

高等学校の日本史では、このさかのぼり学習は難しいです。

日本史を選択すると、歴史総合（必修）、日本史探求となりますが、歴史総合は必修科目なので1年次、日本史探求を2・3年次に履修する学校が多いです。

当初、歴史総合は近現代史なので、さかのぼり学習で歴史総合→日本史探求としたほうがわかりやすくなると思っていましたが、高等学校では政治史、文化史など範囲が広いためAがあったからBがある、BがあるからCがあるとの手法がとりにくいためです。あくまでも支援学校での歴史学習向きです。



## ◆授業の準備

### ○わかりやすい授業のために

#### ・レジュメプリントの充実

授業では、レジュメプリントを使用して、空欄を埋めていく形で進めました。レジュメプリントも、1 事象につき資料も加えて A4 両面 1 枚となるように精選し、わかりやすくしています。

### ○ICT 機器の利用

#### ・PPT の利用

レジュメプリントに載せた資料を画像によりカラーで見せてより分かりやすいように指導しています。

なお、レジュメの空欄についてはこの PPT には入れるとともに、板書にて対応しています。これは、PPT だと TV を見ているような感じとなる生徒をこれまでもみているので、空欄については板書にて示して、転記を求める授業スタイルをとっているからです。

#### ・NHK for school 等による動画

事象の流れを、NHK for school 等の動画をながすことにより、あらかじめ頭に入れてから、レジュメプリントを使って授業を進めるようにしています。

同じく NHK の“タイムスクープハンター”はその時代の様子がコミカルに表現されているので、授業では多用しました。

# ◆年間授業計画

授業名：社会理科

単元名：日本史（通史）

単元目標：歴史の流れを身につけ、その時代事象の教訓を考える

単元計画

| 時数            | 主な学習活動                                                                                                                                              |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1,<br>2       | <p>＝100年前のパンデミック＝ “歴史を学ぶ意味”</p> <p>スペイン風邪→インフルエンザとコロナウイルス感染症を比べてみよう</p> <p>歴史の教訓：歴史を学ぶことは未来を知ること</p>                                                |
| 3,<br>4       | <p>＝金儲けだけしてればいいの？＝ “高度経済成長”</p> <p>高度経済成長期の経済発展と公害を取り上げ、光と影を考える</p> <p>公害を出して金儲けする事より、三方良し（売り手、買い手、社会に貢献）のほうがいい</p> <p>歴史の教訓：社会に貢献していかななくてはならない</p> |
| 5             | <p>＝庶民はつらいよ＝ “太平洋戦争①”</p> <p>空襲による民間人の被害や徴用された船員の43%の死亡率などを伝え、軍隊に入らなくても大きな被害が出たことを取り上げる。</p> <p>歴史の教訓：弱いところが一番被害を受ける</p>                            |
| 6             | <p>＝平和をもとめて！＝ “国際連盟と国際連合”</p> <p>平和を求める世界組織について考える</p> <p>歴史の教訓：国民の声を伝えることの大切さ</p>                                                                  |
| 7,<br>8       | <p>＝太平洋戦争は誰が始めた＝ “民主主義の発展”</p> <p>明治以降の政治体制の変遷、制限選挙から普通選挙、婦人参政権を取り上げたうえで、五・一五事件、二・二六事件が起きた背景である、政治不信を考える</p> <p>歴史の教訓：政治不信をなくすことの大切さ</p>            |
| 9.<br>10      | <p>＝勝ったけど場所がねえ＝ “日清日露戦争”</p> <p>日清日露戦争で勝利したことにより、領地や賠償金、国際的地位が増したことを踏まえ、その後どう軍部が動いていったかを考える</p> <p>歴史の教訓：反省をし、行いをただすこと</p>                          |
| 1<br>1,<br>12 | <p>＝背伸びしてみた＝ “鹿鳴館と富国強兵”</p> <p>西洋の真似をした鹿鳴館と着実に力をつけていった富国強兵を考える</p> <p>歴史の教訓：猿真似ではなく、一步一步着実に進むことの大切さ</p>                                             |

|                |                                                                                                                                  |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>3,<br>1 4 | =明治維新= “明治維新”<br>植民地化を免れた日本 列強の動きの分析と、その情報源オランダ風説書を考える<br>歴史の教訓：情報を正しく仕入れて分析することの大切さ                                             |
| 1<br>5、<br>1 6 | =江戸はスーパーECO シティ= “江戸時代の暮らし”<br>紙のリサイクルを取り上げ、そこから江戸時代に行われていた循環社会について考える<br>歴史の教訓：リサイクルの大切さ                                        |
| 1<br>7、<br>1 8 | =3英傑 社長にするなら誰が良い？= “戦国時代”<br>織田、豊臣、徳川 3英傑を社長にたとえることにより、武将について知り、関ヶ原の戦いでの小早川の裏切りから、人と人のつながりを考える<br>歴史の教訓：人と人のつながりが大切              |
| 1 9            | =日本らしいといえは= “鎌倉・室町時代に確立したもの”<br>和風と呼ばれるものは、江戸期までに確立したものが多い<br>鎌倉・室町での文化の発展について考える<br>歴史の教訓：文化を認め合い融合していけば発展していく                  |
| 2 0            | =ギャラと仕事のバランスは大切だよ= “鎌倉室町時代武士政権の誕生”<br>鎌倉幕府か元寇の役で“御恩”がなく、建武の新政も武士をないがしろにして崩壊したことを踏まえ、仕事とギャラについて考える<br>歴史の教訓：仕事に見合う見返りがないと誰もついてこない |
| 2 1            | =人も土地もみんなのもの= “奈良・平安時代”<br>大化の改新→大宝律令→三世一身の令→律令政治の崩壊を踏まえ、ロシア革命→ソ連の成立→グラスノスチ→ソ連の崩壊の歴史の流れを比べて、歴史は繰り返すについて考える<br>歴史の教訓：歴史は繰り返すもの    |
| 2 2            | =日本の始まり= “縄文・弥生時代”<br>縄文弥生時代を取り上げ、縄文時代の入江貝塚遺跡から見つかった障がい者の骨から、重度の障がい者でも大切にしていた縄文時代を考える<br>終わりに：人は、優しい心でできていると信じている                |

#### ◆レジュメプリントの例

- ・1回目 =100年前のパンデミック=
- ・最終回 =日本の始まり=

## コロナはいつまで？

～100年前と4年前のパンデミックから考えよう～

### ●ポスター



ひだり  
左のポスターは、(① 1919 ) 年ごろ作られた  
ものです。

ちなみに下のポスターは2021年のもの



### ●100 年前のパンデミック

(② パンデミック ) とは、感染症の世界的大流行のこと

4年前は新型コロナウイルスで、パンデミックで大変でした。

では、前回のパンデミックとは何でしょうか？それは1918年から流行した

(③ スペイン風邪 ) です。いまでいうインフルエンザです。

### ●スペイン風邪の死者

当時の日本の人口は5600万人で死者は45万人。すなわち100人いれば8人が死亡する威力でした。

## ●スペイン風邪はインフルエンザへ

スペイン風邪のパンデミックは、終結まで（④ 3 年 ）  
かかりました。ですがその後もインフルエンザと名前を変え人類  
に脅威を与えています。今でも重症者が約300～500万人、死  
亡者が約29～65万人と推定されています。



## ●コロナも3年？

日本で最初にコロナ患者が発見されたのが、2020年1月。  
そして5類（インフルエンザと同じ扱い）に移行されたが、2023年5月。  
パンデミック収束まで約3年かかりました。  
しかし2024年4月1日から7日の間のコロナ患者は、日本だけでも、2万人を超え  
ています。スペイン風邪と同じようにインフルエンザのようになるのでしょうか？

## ●スペイン風邪から学ぶこと

- 油断せずに予防を行うこと
- 正確な情報を得て行動すること

## 日本の始まり

### ～縄文・弥生時代～

皆さんは、弥生時代、縄文時代と聞いてどう思いますか？今まで現在から奈良時代までの約1300年の歴史を学習してきました。いろいろなことがありましたね。弥生時代は“今から2300年前”から“今から1700年前”までの約600年間、縄文時代は“今から13000年前”から“今から2300年前”までの約10000年間と非常に長い歴史があります。ではその様子をみてみましょう。

### ●土器で分ける縄文と弥生



縄文土器



弥生土器

(①) の発明によって、それまで食べられなかったものが食べられるようになりました。その土器で分けています。

縄文時代の土器は縄の模様がついています。だから縄文時代と呼んでいます。この縄文土器は粘土を乾燥させただけのものなのでもちろんですが、立体装飾が優れています。

それに対して東京都文京区弥生で発見された

(②)

は、粘土を焼いて作るのですから丈夫で簡素です。

### ●縄文人の暮らし



縄文人は、麻を編んだものや毛皮を着ていました。食べ物は春には山菜、夏には(③)、秋には木の实や果物、冬にはシカやイノシシ、といったように四季の恵みを最大限に利用して

いたようです。



### ●弥生人の暮らし



大陸より(④)文化が伝わってきて、食料を生産するようになりました。そして金属製の道具を使うようになりました。

水田ができ稲作が始まりました。これにより“ムラ”ができました。集団ができると皆を引っ張るリーダーが自然と生まれてきました。またコメを蓄える高床式倉庫が建てられ、食料を備蓄するようになりました。





## ●弥生人 =吉野ケ里遺跡の人骨=

九州の佐賀県にある吉野ケ里遺跡で発掘された人骨の中には、怪我をしたり、矢じりが刺さったままのもの、首から上が無いものなどがありました。また集落も2重の堀で囲まれるなど戦闘に備えたものです。これから、集落同士での(⑤)があったことがわかります。



## ●縄文人 =北海道入江貝塚の人骨=



北海道の入江貝塚という遺跡で、縄文人の人骨が15体発見されました。そのうちの1体が大人の女性の骨なのですが、腕や足の骨がものすごく細くて立って歩けない状態でした。調査の結果、この女性は幼少時にポリオ（小児マヒ）になって、ずっと寝たきりの生活だったと考えられています。現代で言えば重度の(⑥)です。障がい者を大切にしていた社会とも言えます。

## ●私たちのDNA

私たちのDNAには縄文人や弥生人のものが引き継がれていると思います。だから、弥生人のような戦争をしたり人の悪口を言ったりする悪い心があると思います。

でも、縄文人のような平和を愛し弱い立場の人を優しくいたわる心もあると思います。

そして、人類はとてとても長い時間、縄文人のような平和で優しい心をもって生活してきたのです。だから、私たちの心の多くの部分はとてもやさしくて思いやりのあるよい心でできていると信じています。

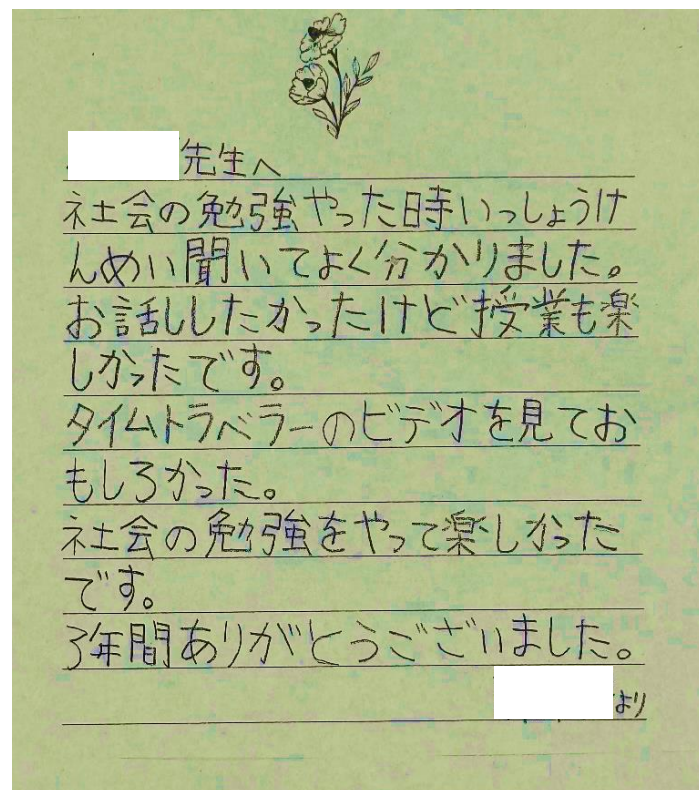
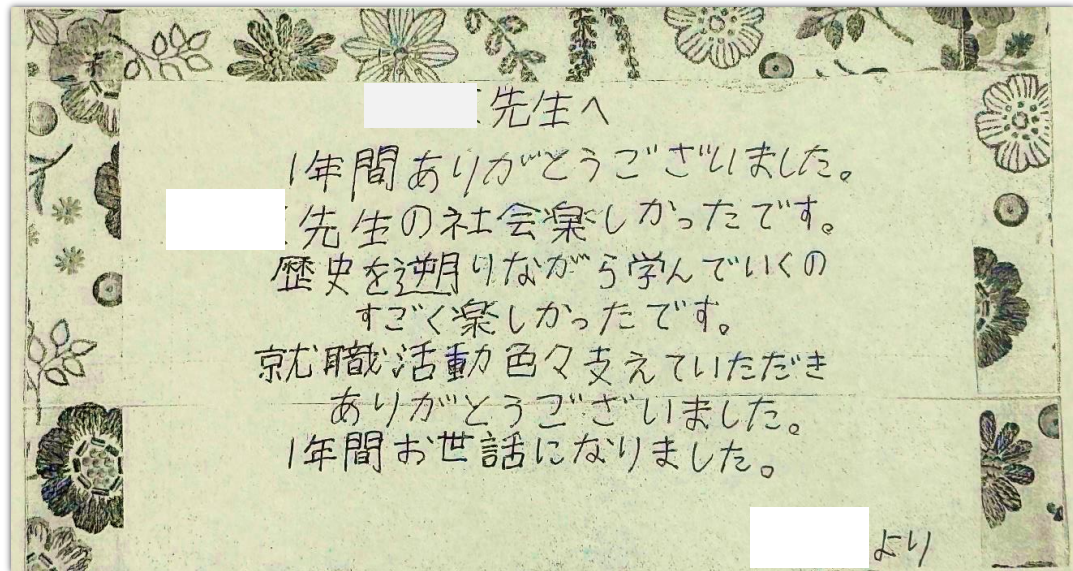




◆最後に

このさかのぼり学習を始めて2周りました。生徒からは、「授業が面白かった」との声をよく聞いています。年号の暗記などは行わないようにして、歴史の流れと教訓を大切にしたい授業を行ったからだと思います。

最後に、生徒からもらった手紙を載せています。生徒の記憶に残った日本史となったと思います。



## 大阪府立茨木支援学校

### —研究・実践まとめ— いばらき

発行日 令和8年3月31日

発行者 大阪府立茨木支援学校

〒567-0067

大阪府茨木市西福井4丁目5番5号

TEL 072-643-6951(代表) FAX 072-643-2776